

博士課程教育リーディングプログラム  
平成25年度採択プログラム中間評価  
アンケート調査

結果報告

平成29年3月

独立行政法人日本学術振興会

博士課程教育リーディングプログラム委員会事務局

## 目次

まえがき .....	2
【参考：プログラム担当者と学生の設問の比較】 .....	3
第1部 プログラム担当者アンケート調査結果 .....	5
1. プログラムへの関与（問3） .....	5
2. 指導の内容（問5） .....	6
3. 実施されたプログラムと整備された環境（問6） .....	7
4. プログラムの有効性（問7） .....	9
5. 運営・管理（問8） .....	9
6. プログラムに対する印象（問9） .....	10
7. 指導・支援の改善のための評価等の実施（問10） .....	11
8. 学生への効果・負担（問11） .....	11
9. 参加教員の属性（問2, 3, 4） .....	12
第2部 学生アンケート調査結果 .....	15
1. プログラムへの参加動機（問6-1） .....	15
2. プログラムがなかった場合の最終学位（問6-2） .....	16
3. プログラムに対する感想（問7） .....	17
4. プログラムで受けた指導（問8） .....	18
5. 環境の整備と有効性（問9A） .....	19
6. 経験の有無と有効性（問9B） .....	20
7. 身に付いた能力（問10） .....	22
8. プログラムへの評価（問11） .....	23
9. プログラムの効果・負担（問12） .....	23
10. 修了後の進路（問13） .....	24
11. 学生の属性（問2, 3, 4, 5） .....	26
12. プログラム情報の獲得方法（問17） .....	29
附録A サンプルと回答者数 .....	30
附録B プログラム担当者アンケート調査と単純集計結果 .....	31
附録C 学生アンケート調査と単純集計結果 .....	39

## まえがき

独立行政法人日本学術振興会では、文部科学省からの委託により「博士課程教育リーディングプログラム」の審査・評価等を実施している。平成25年度に採択した18のプログラムが4年目となる平成28年度に実施した中間評価において、各プログラムの進捗状況を客観的に評価するための資料として、各プログラム担当者と各プログラムに参画している学生に対してアンケート調査を行った。本報告は、その概要を示すものである。

### <実施概要>

アンケート実施期間：平成28年4月25日（月）～5月26日（木）

アンケート対象プログラム担当者：

#### 1. 条件

平成28年4月1日現在の全プログラム担当者（ただし、同日付けで新たに担当者となった者を除く）のうち3割程度（対象者は博士課程教育リーディングプログラム委員会事務局にて無作為に抽出）

#### 2. 対象者数

341名

#### 3. 回答者数

291名（回答率85.3%）

アンケート対象学生：

#### 1. 抽出条件

採択プログラムに選抜された学生のうち、平成27年度末までにプログラムに入学（編入も含む）した学生で、かつアンケート実施時点も在籍している全学生

#### 2. 対象者数

594名

#### 3. 回答者数

571名（回答率96.1%）

【参考：プログラム担当者と学生の設問の比較】

以下の設問については、プログラム担当者と学生に対して同じ質問をしている。参考までに対応する設問の一覧を示す。

プログラム担当者		学生	
問5	<p><b>【2. 指導の内容】</b></p> <p>このプログラムで、先生は下のような指導が行われていますか。また、行っている場合はそれは有効ですか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導学生以外の学生への指導</li> <li>・主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等</li> <li>・研究室ローテーションの受け入れ</li> <li>・プロジェクト形式による授業や課題</li> <li>・メンター等としての授業外のサポート</li> </ul>	問8	<p><b>【4. プログラムで受けた指導】</b></p> <p>このプログラムで、下のような指導を受けましたか。また受けた場合、それは有効ですか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・指導教員以外の教員からの指導</li> <li>・企業、政府機関など学外者からの指導、助言</li> <li>・主専攻以外の分野の授業等の履修</li> <li>・研究室ローテーション</li> <li>・プロジェクト形式による授業や課題</li> <li>・メンター等による授業外のサポート</li> <li>・産業界、官界、NPO、国際機関など、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供</li> </ul>
問6	<p><b>【3. 実施されたプログラムと整備された環境】</b></p> <p>このプログラムで、下のようなことは実施、あるいは整備されていますか。また1～3を選択した場合、それは有効に機能していますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業、政府機関など学外者からの指導</li> <li>・産業界、官界、NPO、国際機関など、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供</li> <li>・奨励金等大学からの金銭的支援</li> <li>・異分野の学生間で切磋琢磨できる環境</li> <li>・外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会</li> <li>・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1ヶ月未満）</li> <li>・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1ヶ月以上）</li> <li>・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動</li> <li>・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1ヶ月未満）</li> <li>・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1ヶ月以上）</li> <li>・本プログラムの中での留学</li> <li>・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップおよび留学以外の国外での学外活動</li> </ul>	問9A	<p><b>【5. 環境の整備と有効性】</b></p> <p>このプログラムで、下のようなことは整備され、経験していますか。またそれは有効に機能していますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・奨励金等大学からの金銭的支援</li> <li>・異分野の学生間で切磋琢磨できる環境</li> <li>・外国人、職業人など、通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会</li> </ul>
		問9B	<p><b>【6. 経験の有無と有効性】</b></p> <p>このプログラムの枠によって、下のことを経験しましたか、また経験した場合それは有効でしたか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1ヶ月未満）</li> <li>・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1ヶ月以上）</li> <li>・国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動</li> <li>・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1ヶ月未満）</li> <li>・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1ヶ月以上）</li> <li>・本プログラムの中での留学（3ヶ月未満）</li> <li>・本プログラムの中での留学（3ヶ月以上1年未満）</li> <li>・本プログラムの中での留学（1年以上）</li> <li>・海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップおよび留学以外の国外での学外活動</li> </ul>

問 7	<p><b>【4. プログラムの有効性】</b> このプログラムは、学生に以下のような資質を身につけさせるのに、どの程度有効ですか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高度な専門的知識・研究能力</li> <li>・ 高い国際性</li> <li>・ 専門以外の分野の幅広い知識</li> <li>・ 物事を俯瞰し本質を見抜く力</li> <li>・ 自ら課題を発見し解決に挑む力</li> <li>・ 独創的な能力</li> <li>・ チームのマネージメント力</li> <li>・ 企画立案、関係者との調整、統率する能力</li> <li>・ 他者と協働する力</li> </ul>	問 10	<p><b>【7. 身に付いた能力】</b> このプログラムによって、下のような能力は身についたと思いますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高度な専門的知識・研究能力</li> <li>・ 高い国際性</li> <li>・ 専門以外の分野の幅広い知識</li> <li>・ 物事を俯瞰し本質を見抜く力</li> <li>・ 自ら課題を発見し解決に挑む力</li> <li>・ 独創的な能力</li> <li>・ チームのマネージメント力</li> <li>・ 企画立案、関係者との調整、統率する能力</li> <li>・ 他者と協働する力</li> </ul>
問 9	<p><b>【6. プログラムに対する印象】</b> 以下の点について、どう考えられていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラム担当者間でのプログラムについての理解の共有ができています</li> <li>・ 一部の教員に負担が集中している</li> <li>・ プログラム担当者以外の教員の理解があり、協力的である</li> <li>・ 大学の執行部が、プログラムの目的を理解し、協力的である</li> <li>・ 優秀な学生が多数入学している</li> <li>・ 今後優秀な学生をより多く獲得できる</li> <li>・ 学生はプログラムの意図を良く理解している</li> <li>・ 学生にとって、将来の進路が明確になっている</li> <li>・ 学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す見込みがある</li> <li>・ このプログラムによって、大学院制度の改善に大きな示唆が得られている</li> <li>・ このプログラムが補助期間終了後も大学の独自財源により持続的に運営される見通しがある</li> <li>・ これから進学を考えている学生にこのプログラムを勧めたい</li> </ul>	問 11	<p><b>【8. プログラムへの評価】</b> 以下のような点について、どう考えていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ プログラムに参加する教員間でプログラムについての理解が共有されている</li> <li>・ 一部の教員に負担が集中している</li> <li>・ 指導教員や研究室スタッフを含め、プログラムに参加していない教員等はプログラムの目的を理解し、あなたがプログラムに参加することに協力的である</li> <li>・ 学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す可能性が大きい</li> <li>・ 後輩にもこのプログラムを勧めたい</li> </ul>
問 11	<p><b>【8. 学生への効果・負担】</b> 以下の点について、どう考えられていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ このプログラムによって学生自身の研究に新たな示唆・知見が得られる（得られそうである）</li> <li>・ 学生にとって、所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が二重負担になっている</li> <li>・ プログラムに参画している学生は所属研究室において専門的な研究を進めて、業績を上げられるか懸念がある</li> <li>・ 学生の将来の進路に不安がある</li> </ul>	問 12	<p><b>【9. プログラムの効果・負担】</b> 以下のような点について、どう考えていますか。</p> <p>-----</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ このプログラムによって自身の研究に新たな示唆・知見が得られた（得られそうである）</li> <li>・ 所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が二重負担になっている</li> <li>・ 所属研究室において、自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられるか不安がある</li> <li>・ 修了後の進路に不安がある</li> </ul>

## 第1部 プログラム担当者アンケート調査結果

### 1. プログラムへの関与（問3）

学位プログラムに属する学生の研究指導、学位審査等の質保証を担当し、あるいは履修支援、キャリア形成などを総括しプログラムの実施を責任ある立場で主体的に担う常勤又は非常勤の者（以下、プログラム担当者）に対し、本事業への申請時に想定されていたエフォートと、平成27年度の実績としてのエフォートを聞いている（図1）。

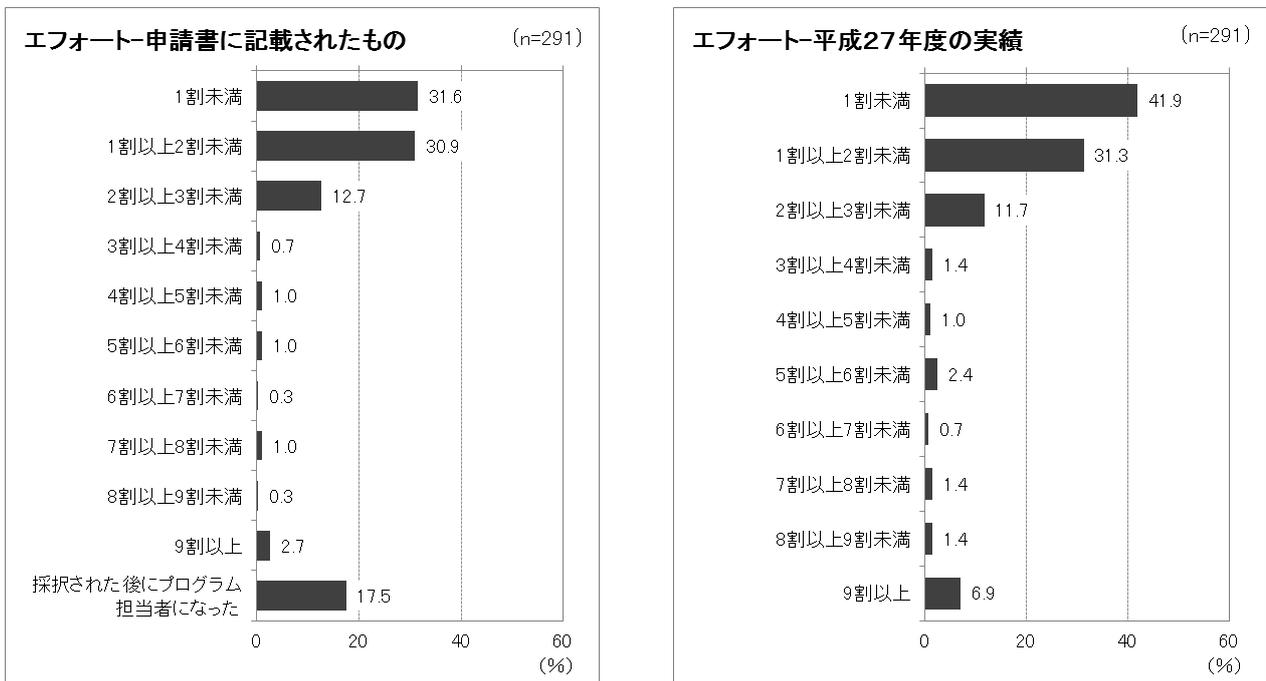


図1 申請時の想定と平成27年度実績のエフォート（n=291）

## 2. 指導の内容（問5）

どのような指導を行っているか（図2）、また行っている場合はその有効性について聞いている（図3）。

「指導学生以外の学生への指導」、「主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等」、「メンターとしての授業外のサポート」を行っているとは半数以上が回答している。また、行っている指導の有効性については95%以上が「有効」又は「ある程度有効」と回答している。

### 行っている指導

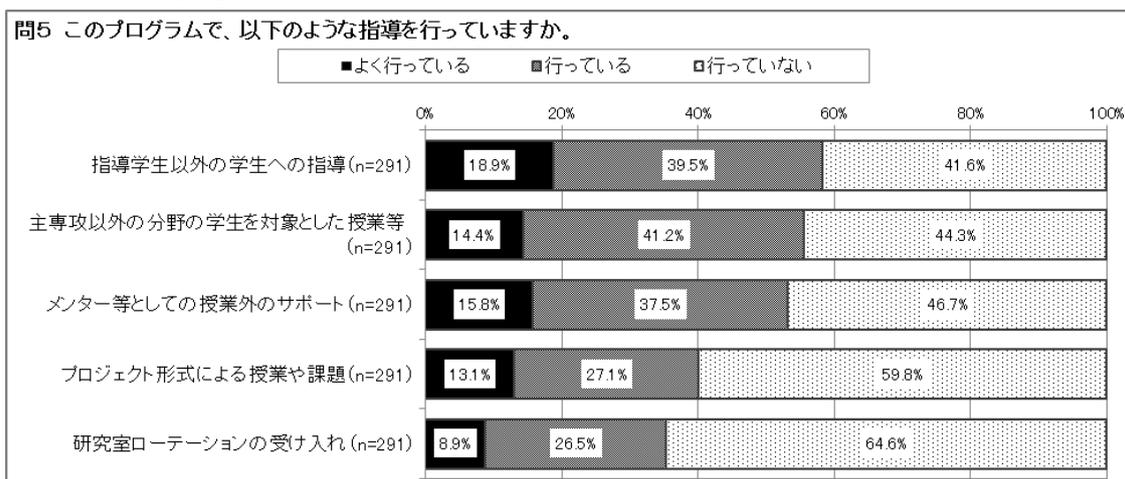


図2 プログラムで担当している指導等 (n=291)

### 指導の有効性

<「よく行っている」「行っている」を選択した場合のみ回答>

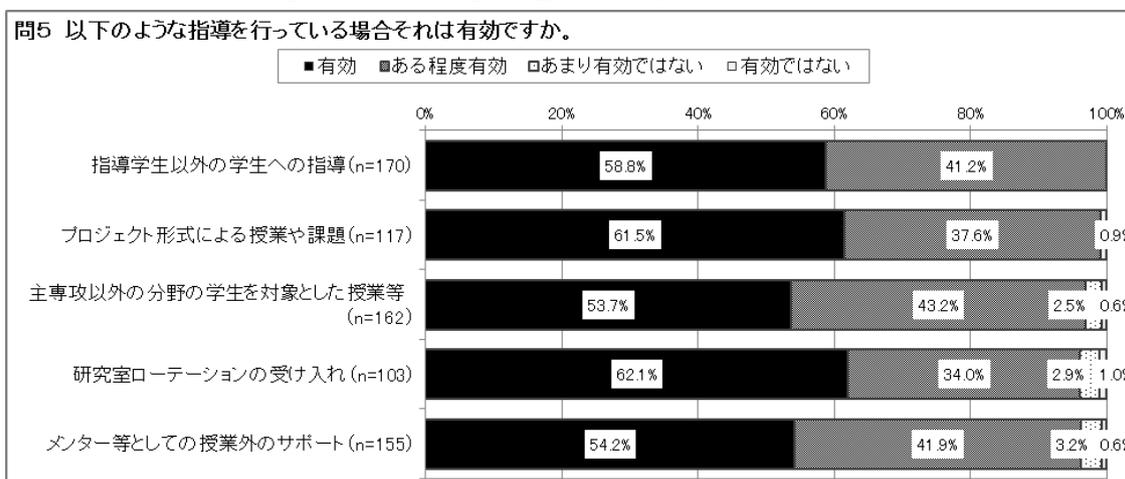


図3 指導の有効性

### 3. 実施されたプログラムと整備された環境（問6）

本プログラム内で学生のために実施されたプログラムや整備された環境について、それが十分実施（整備）されていると感じているか（図4）、また「されている」を選択した場合にはそれが有効と考えているかについて聞いている（図5）。

図4の「通常の大学院では接触しにくい人との交流の機会」、「異分野の学生間で切磋琢磨できる環境」、「教育研究機関へのキャリアパス具体化のための情報提供」、「金銭的支援」、「学外者からの指導」の全てについて、半数以上が「十分にされている」と回答している。留学やインターンシップ等の学外活動の各項目における実施、整備状況については、約24%～43%と一定数が「分からない」を選択しているが、実施している場合、97%以上がいずれの取組についても有効と回答している。

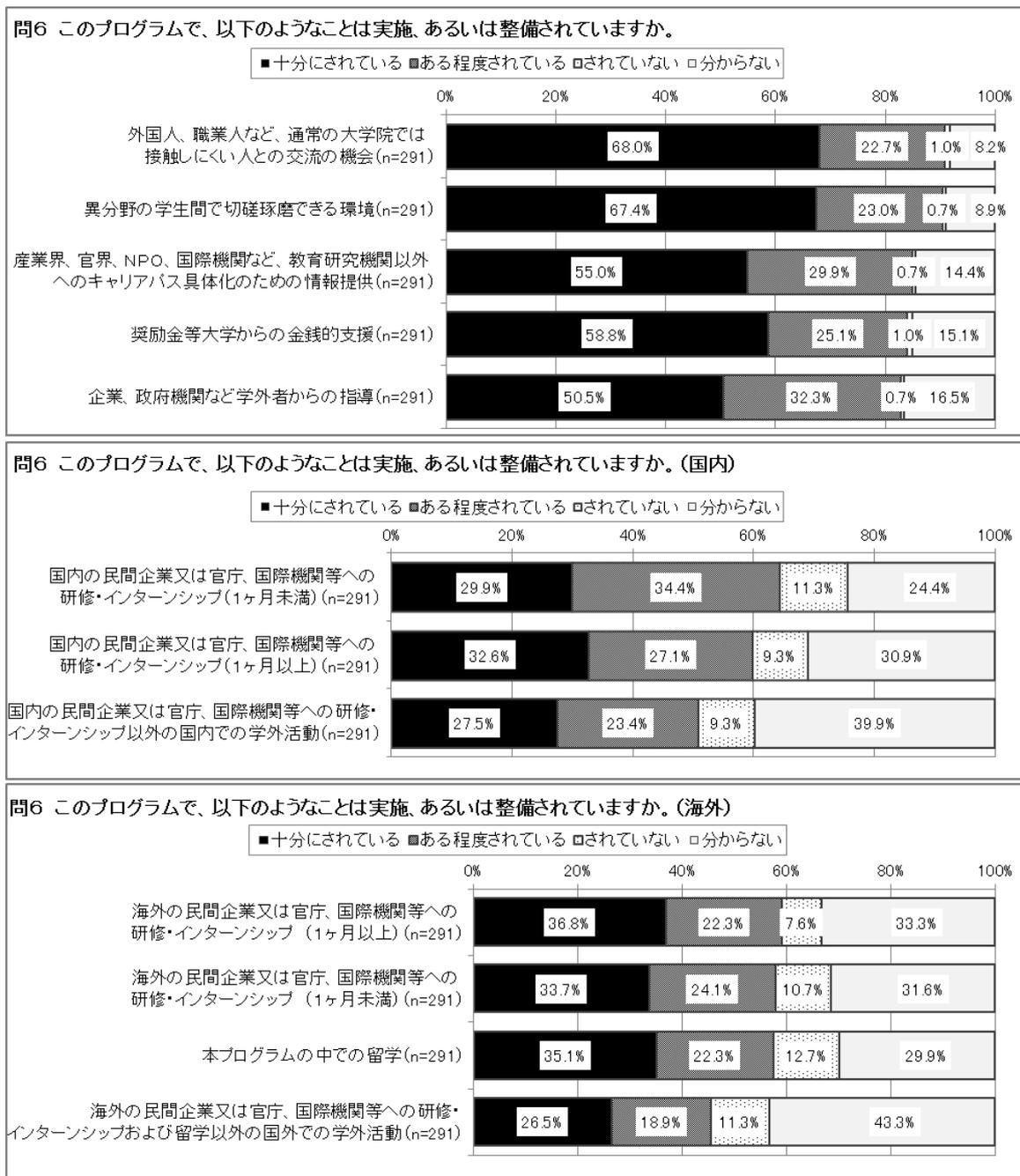


図4 プログラムの実施や環境の整備状況 (n=291)

< 「十分にされている」「ある程度されている」を選択した場合のみ回答 >

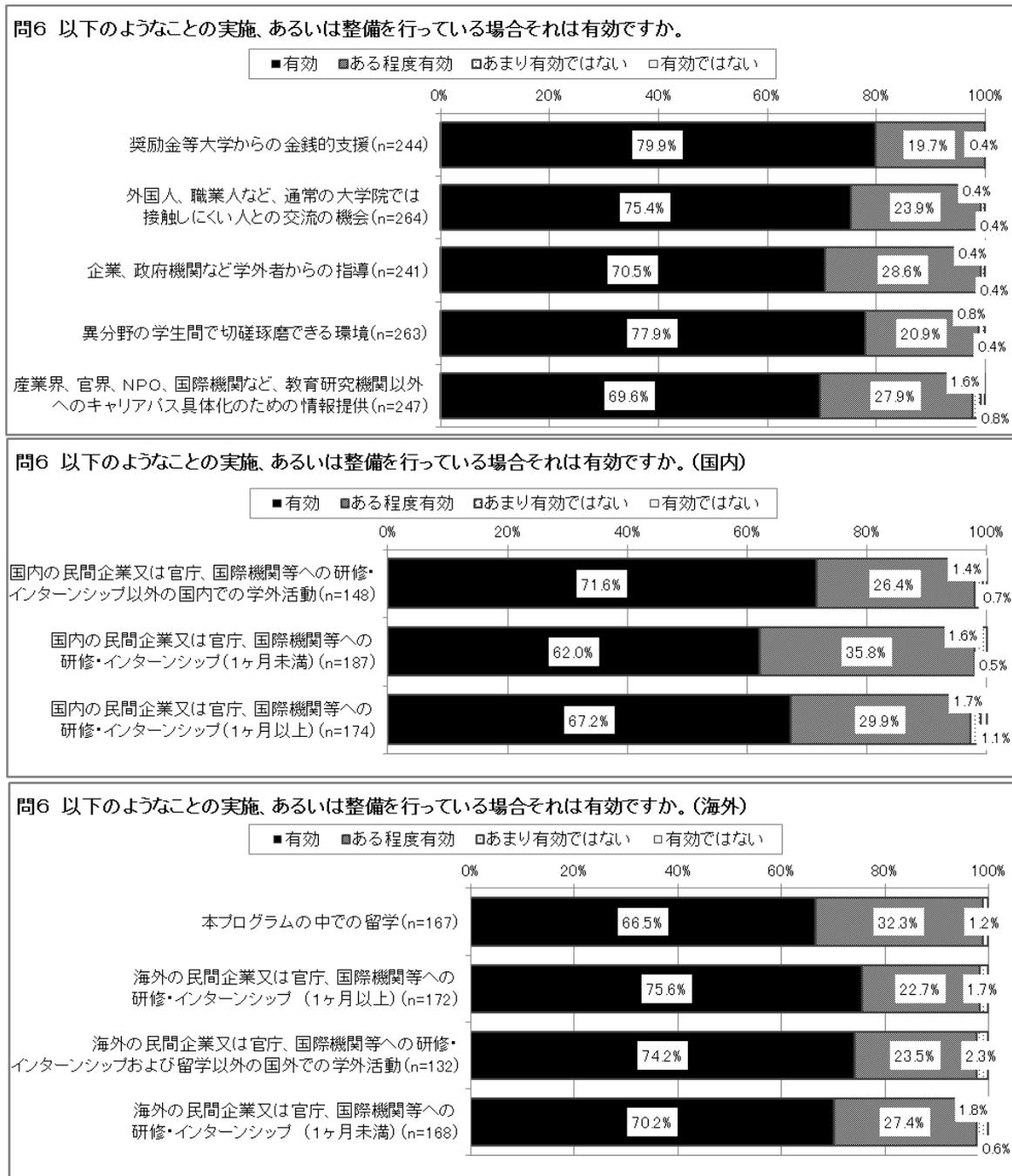


図5 実施されたプログラムと整備された環境の有効性

#### 4. プログラムの有効性（問7）

各プログラムに参加することにより、学生に各能力を身に付けさせることができるか、その有効性を聞いている（図6）。

全ての能力について、プログラムが有効であるとの回答が多数を占めているが、「非常に有効」と回答した数は「高い国際性」（約73%）、「他者と協働する力」（約69%）、「自ら課題を発見し解決に挑む力」（約66%）で特に多い。

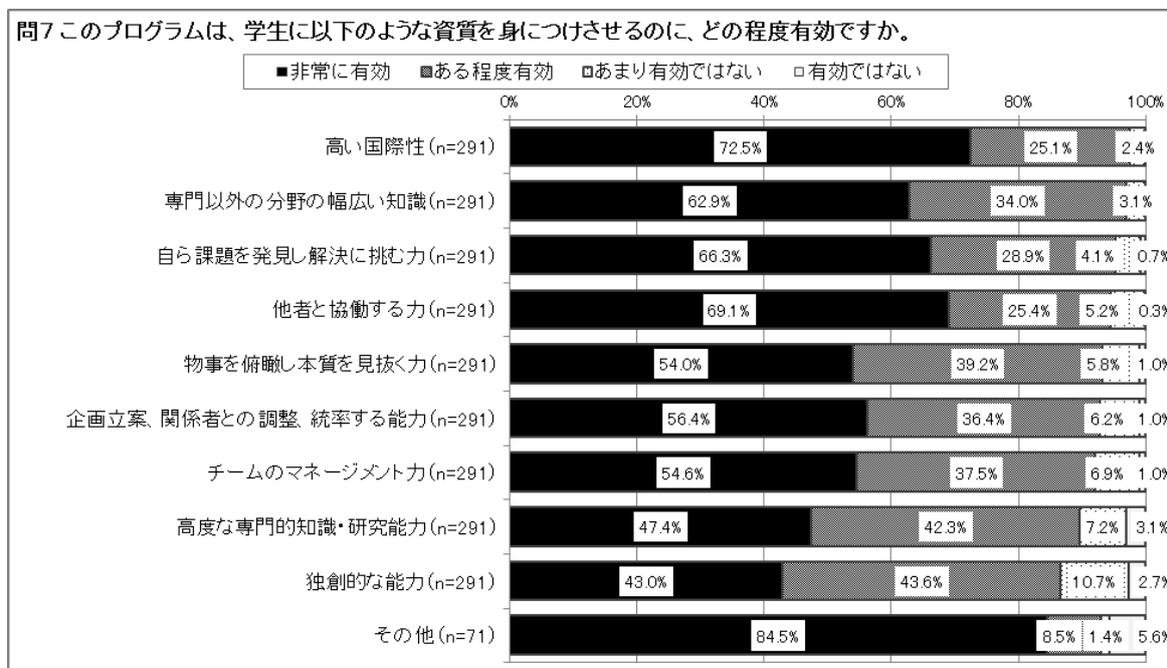


図6 学生へ能力を身に付けさせるためのプログラムの有効性

#### 5. 運営・管理（問8）

プログラムの運営・管理の面についての印象を聞いている（図7）。

学内外への広報が積極的に行われているかについては、「非常にそう思う」の回答が約56%で半数以上となっている。一方で、学長のリーダーシップが発揮されているかについては、「そう思わない」という回答も約13%で一定数見られる。

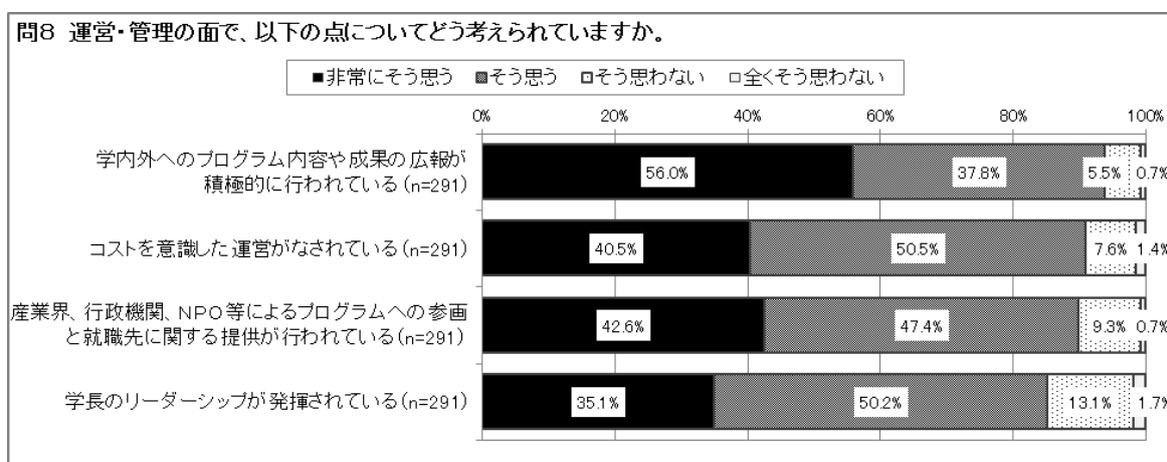


図7 運営・管理の面での印象 (n=291)

## 6. プログラムに対する印象（問9）

プログラム参画学生やプログラムの将来展望などを含めたプログラムの印象を聞いている（図8）。

プログラムに対して概ね肯定的な印象が多く、特に「学術研究だけでなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す見込みがある」かどうかについて、「非常にそう思う」の回答は約52%で半数以上となっている。一方で、「一部の教員に負担が集中している」に「非常にそう思う」又は「そう思う」との回答の合計は約65%となり、「プログラム担当者以外の教員の理解があり、協力的である」に、「そう思わない」又は「非常にそう思わない」との回答の合計は約24%となっている。

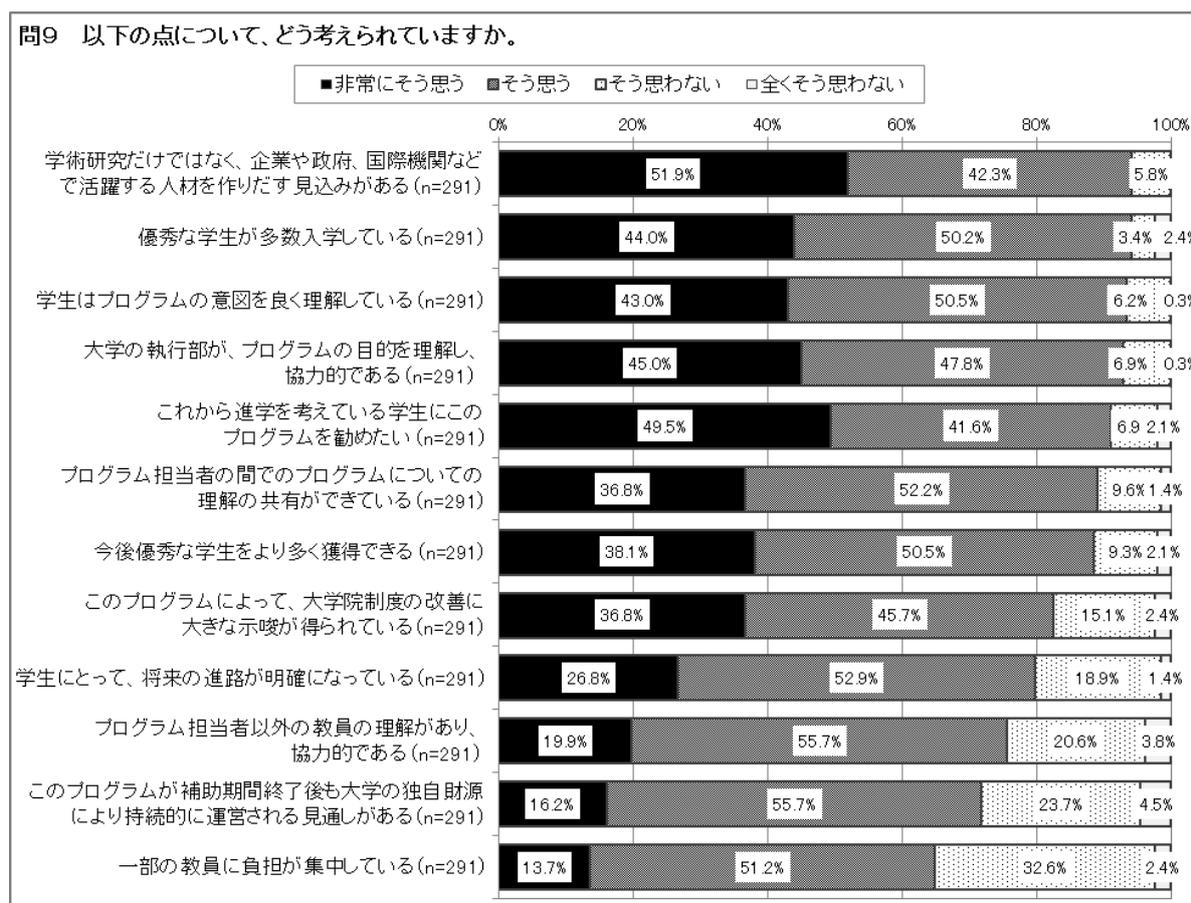


図8 プログラムに対する印象 (n=291)

## 7. 指導・支援の改善のための評価等の実施（問10）

プログラムで担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケートを行っているか聞いている（図9）。

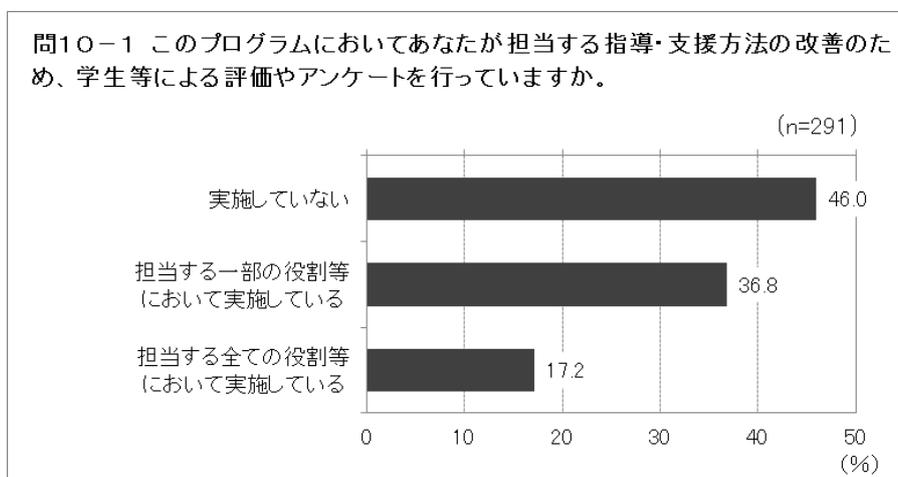


図9 指導・支援の改善のための評価等の実施 (n=291)

## 8. 学生への効果・負担（問11）

学生への効果や負担等について聞いている（図10）。

プログラムによって「学生自身の研究に新たな示唆・知見」が得られるかについては、「非常にそう思う」又は「そう思う」の回答を合計すると94%以上となっており、「非常にそう思う」だけでも半数以上となっている。「学生の将来の進路」や、「学生が所属研究室において専門的な研究を進めて業績を上げられるか」について不安があると回答した者は20%未満であるが、「所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が二重負担になっている」かどうかについては、30%以上が「そう思う」と回答している。

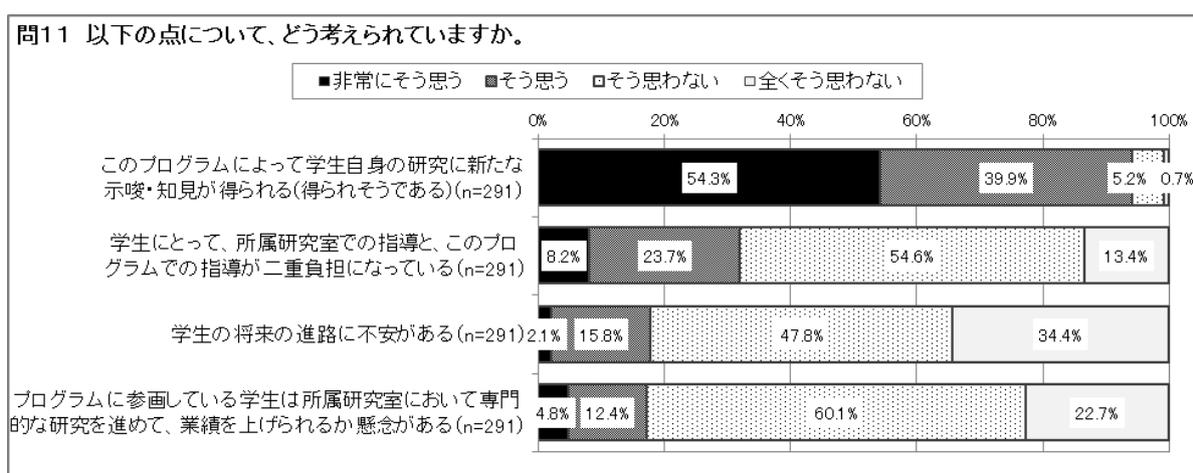
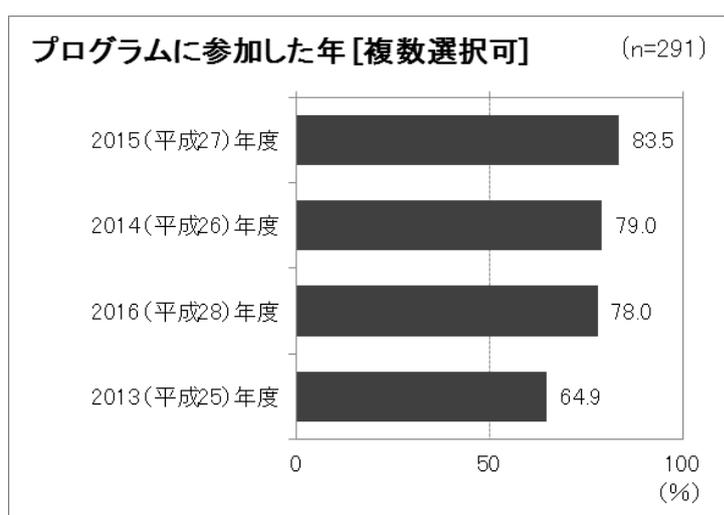
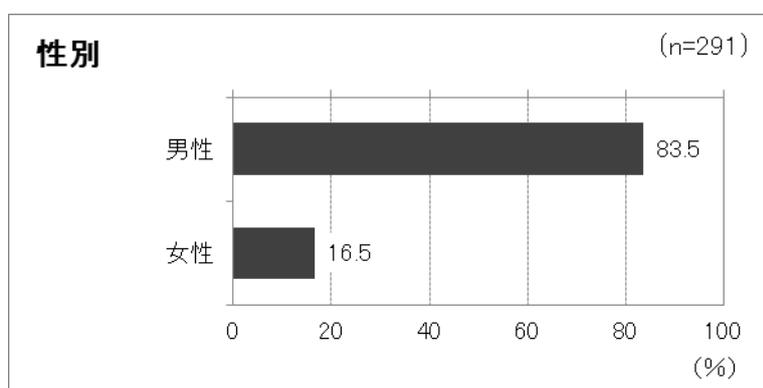
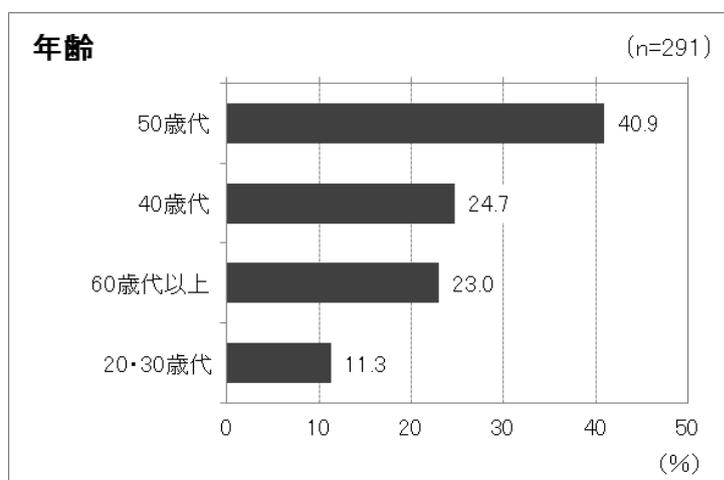


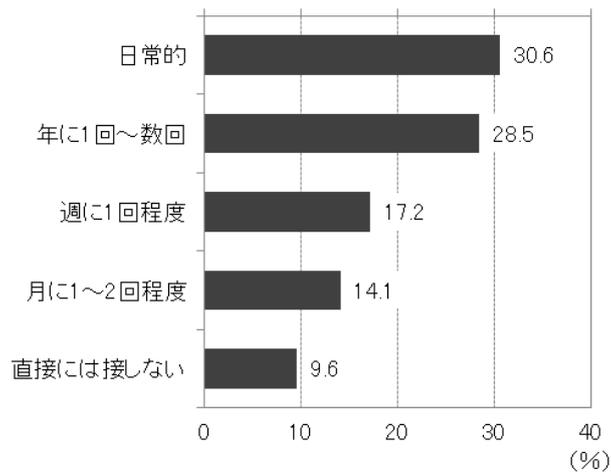
図10 学生への効果・負担等 (n=291)

## 9. 参加教員の属性（問2，3，4）

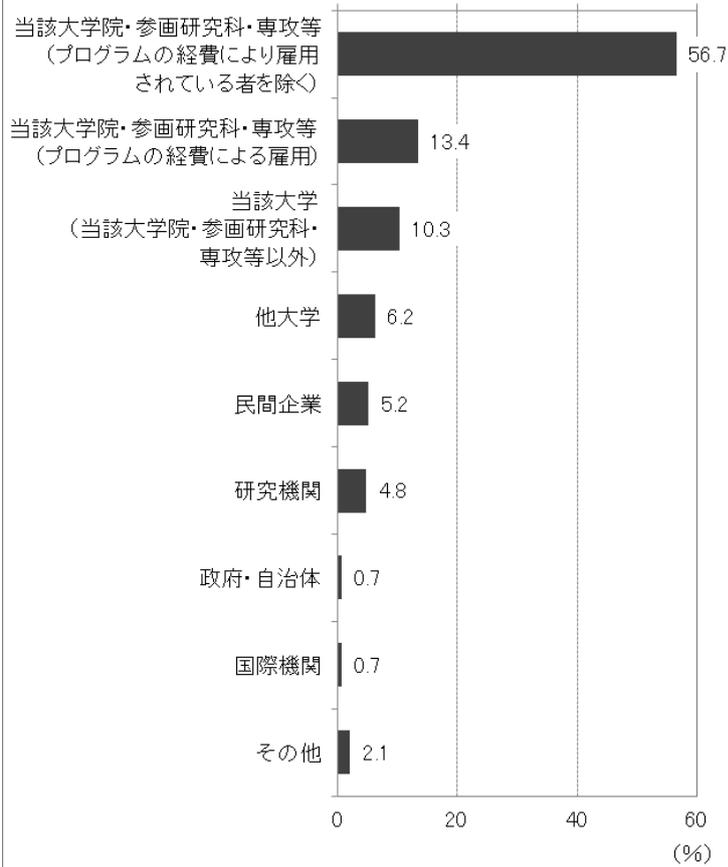
本項目では、回答したプログラム担当者の属性について、設問ごとにその割合を掲載する。

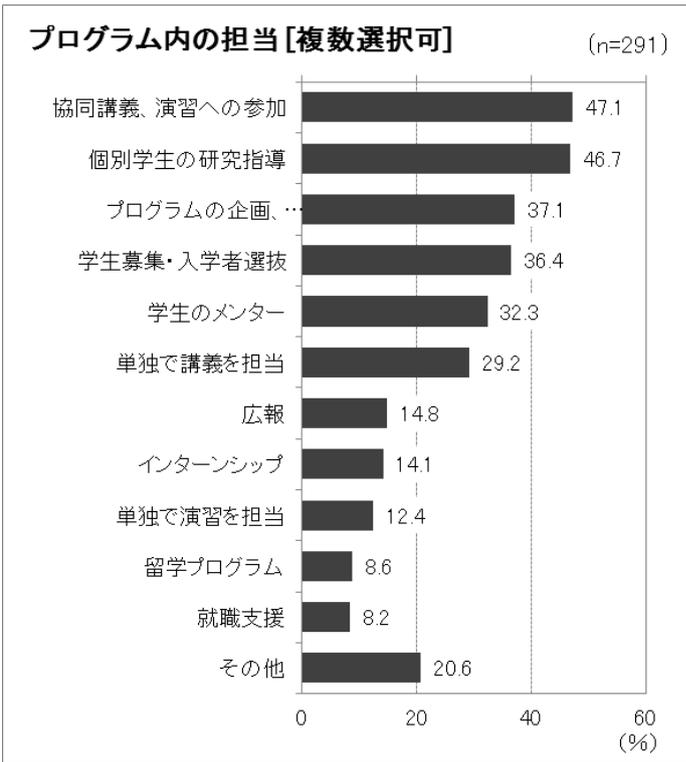


**本プログラムの学生に直接に接する頻度** (n=291)



**所属(本務)** (n=291)





## 第2部 学生アンケート調査結果

### 1. プログラムへの参加動機（問6-1）

このプログラムへの参加動機について、あてはまるもの全て（図11）と、その中で最も直接的な動機に近いもの（図12）について聞いている。

複数選択を可とした設問において、選択者数の多い項目同士を比較するとあまり大きな差は見られないが、この中で、選択者が80%以上となっている「通常の博士課程では得られない、幅広い知識や経験が得られる」、「経済的な支援が充実している」については、いずれも「最も直接的な動機（単数回答）」であるとの回答が約25%となっており、他と比較して多くなっている。なお、「最も直接的な動機（単数回答）」については、この2つに次いで約15%が「プログラムの目的と自分の目指す将来像が合っている」と回答している。

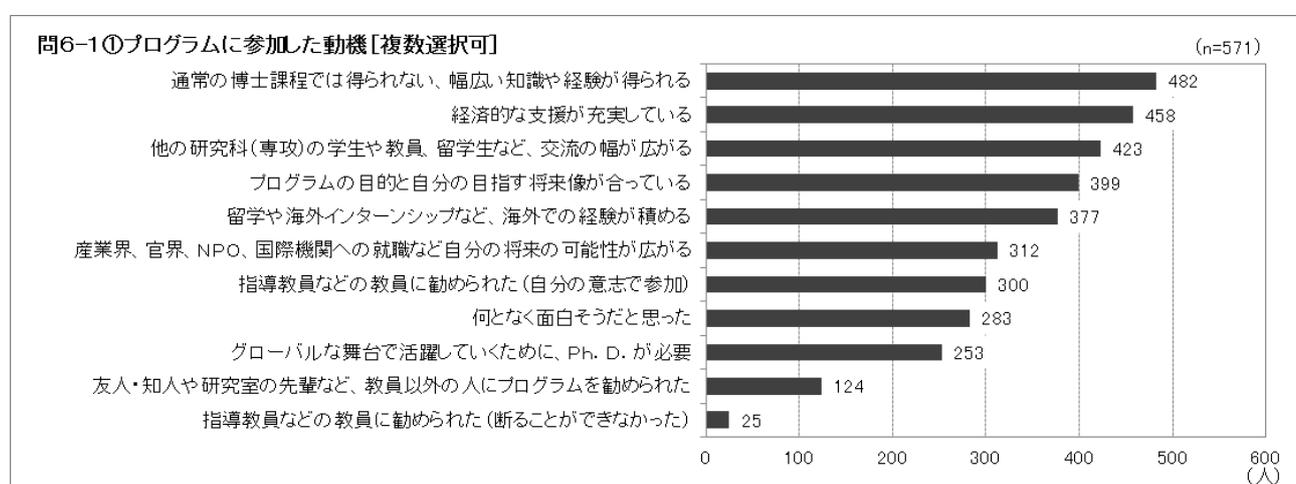


図11 プログラムへの参加動機（複数選択可）(n=571)

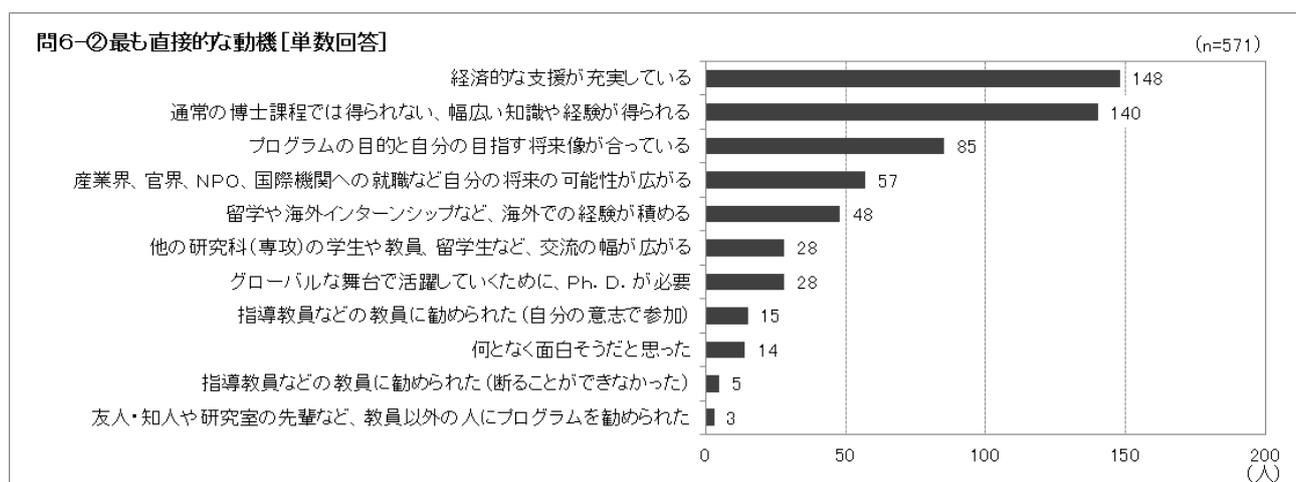


図12 プログラムへの参加動機（単数回答）(n=571)

## 2. プログラムがなかった場合の最終学位（問6-2）

このプログラムがなかった場合、どの最終学位を選択していたかについて聞いている。（図13）

最も回答者が多いのは「博士（今所属する大学と同じ研究科・専攻等）」で約46%を占めるが、次に回答者が多いのは「修士（今所属する大学と同じ研究科・専攻等）」で全体の約35%となっている。

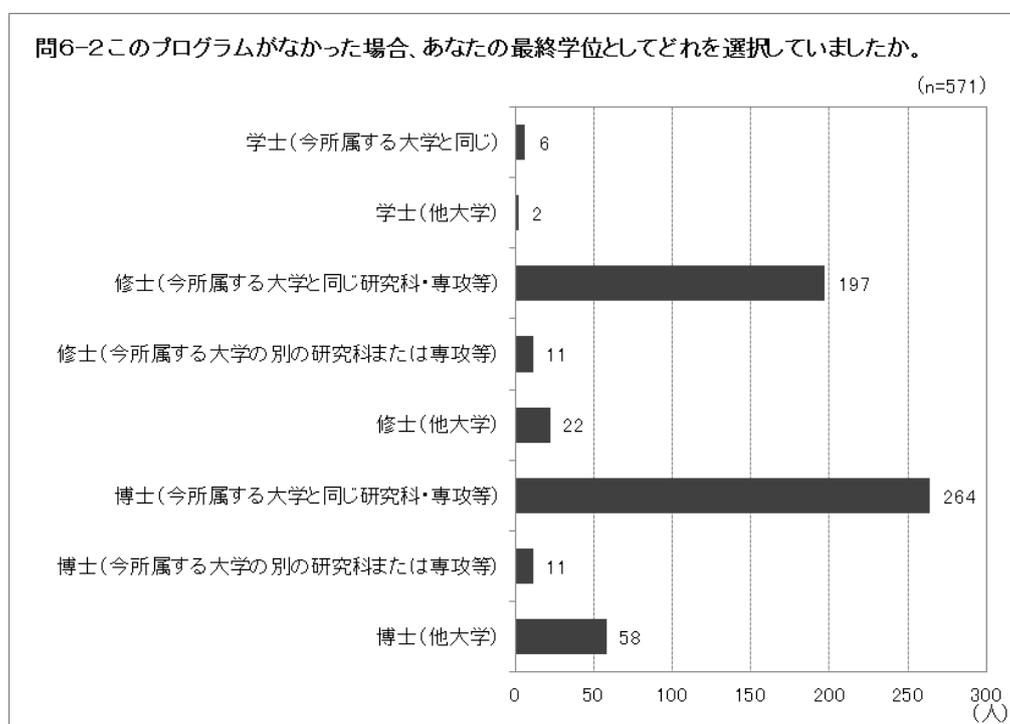


図13 プログラムがなかった場合の最終学位（n=571）

### 3. プログラムに対する感想（問7）

このプログラムをどのように評価するか聞いている。（図14）

いずれの項目も「非常に良い」と「良い」の回答者の合計が過半数を占めているが、特に「他の専門分野の学生との交流」、「奨励金などの経済的支援」については半数以上が「非常に良い」と回答している。

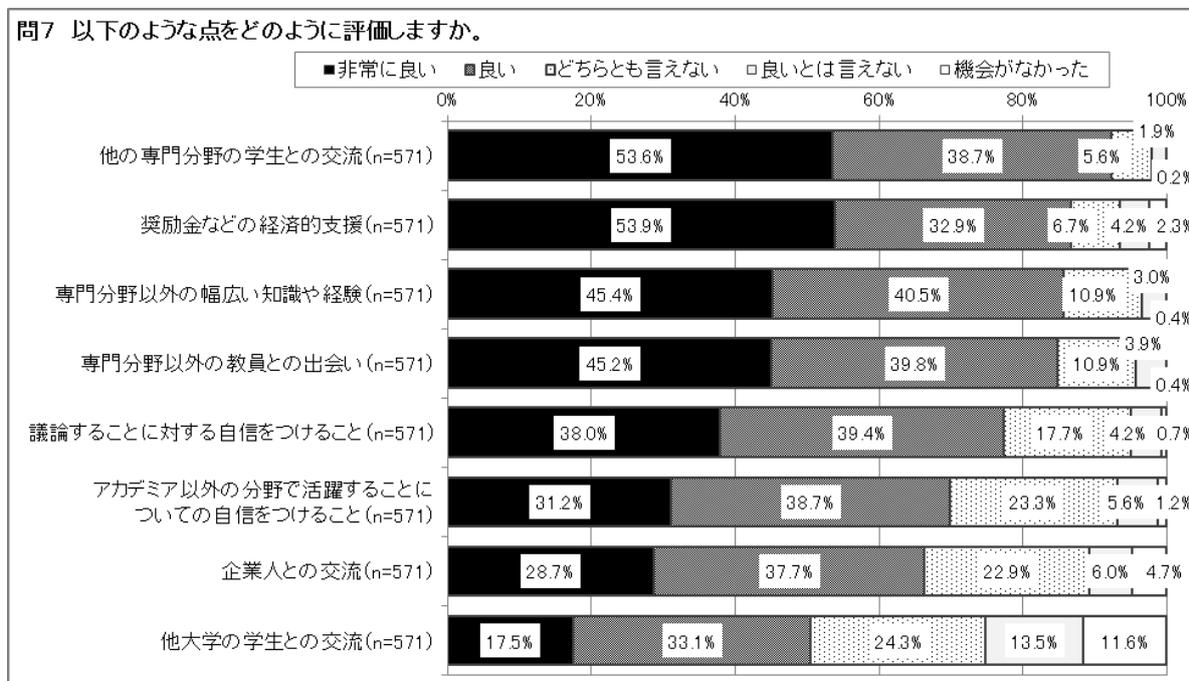


図14 プログラムに対する感想

#### 4. プログラムで受けた指導（問8）

このプログラムでどのような指導をどの程度受けたか（図15）、また、受けた指導が有効であったか（図16）について聞いている。

「研究室ローテーション」や「企業、政府機関など学外者からの指導、助言」では、指導を「受けていない」と回答した学生も一定数見られるが、指導を受けた学生の回答を見ると、どの取組についても「有効」、「ある程度有効」の合計が約90%で、有効性に対する評価は高い。

#### 指導の内容

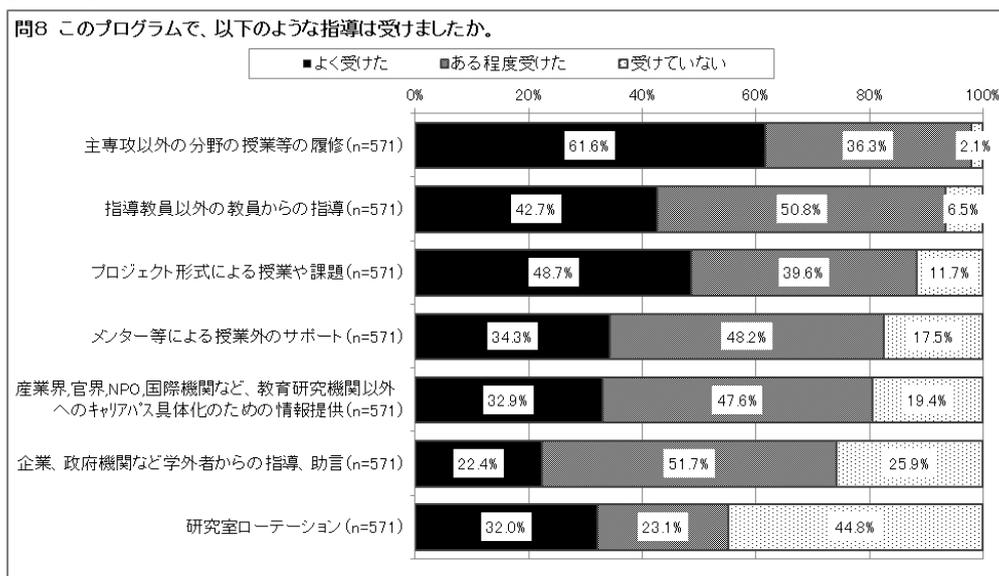


図15 プログラムで受けた指導（n=571）

#### 受けた指導の有効性

< 「よく受けた」「ある程度受けた」を選択した場合のみ回答 >

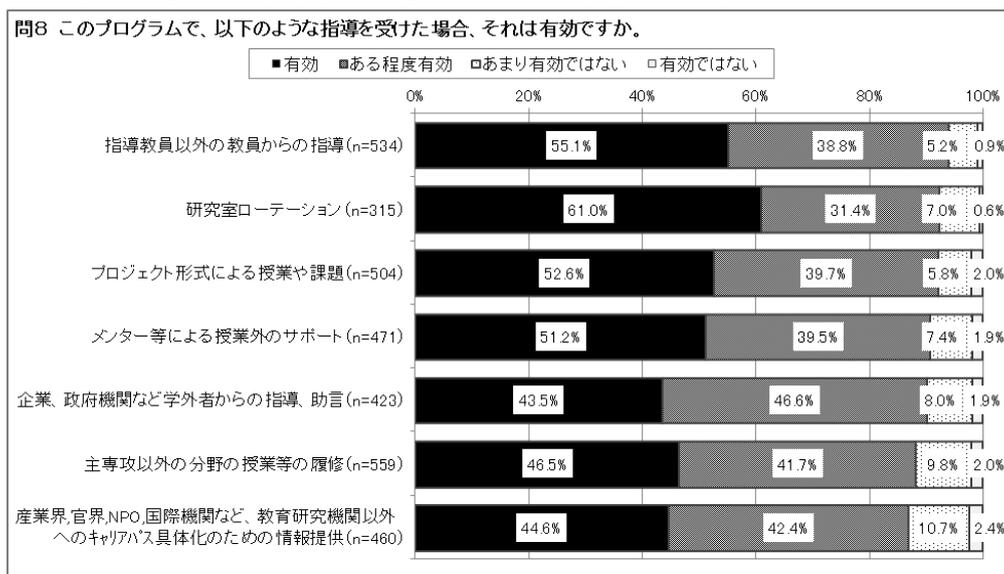


図16 指導を受けた場合の有効性

## 5. 環境の整備と有効性（問9A）

研究やプログラムの活動に専念するためにどのような環境が整備され、経験しているか（図17）、それが有効に機能しているか（図18）について聞いている。

整備が「不十分」であるという回答や、「有効でない」という回答も見られるものの、整備されており、かつ有効であるとの評価が全ての項目で多数を占めている。

### プログラムで整備された環境

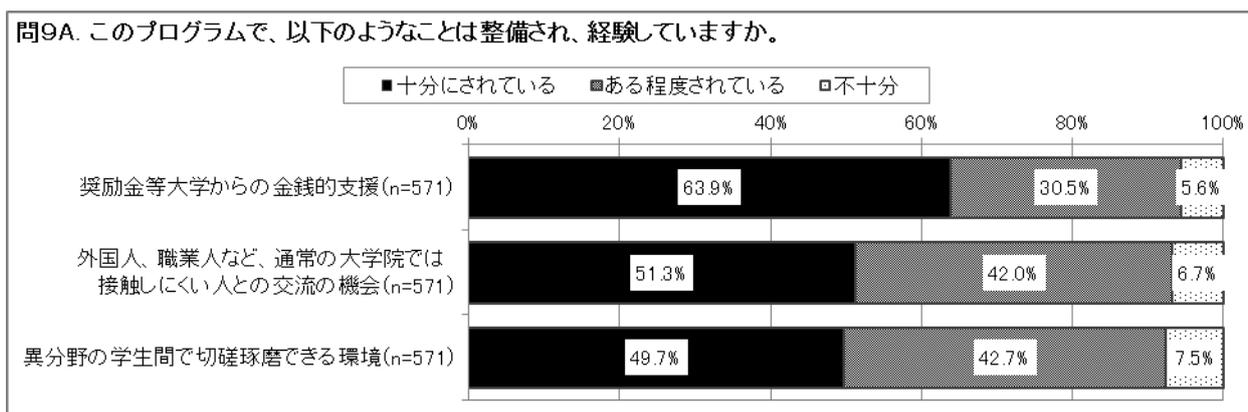


図17 プログラムで整備された環境 (n=571)

### 環境の有効性

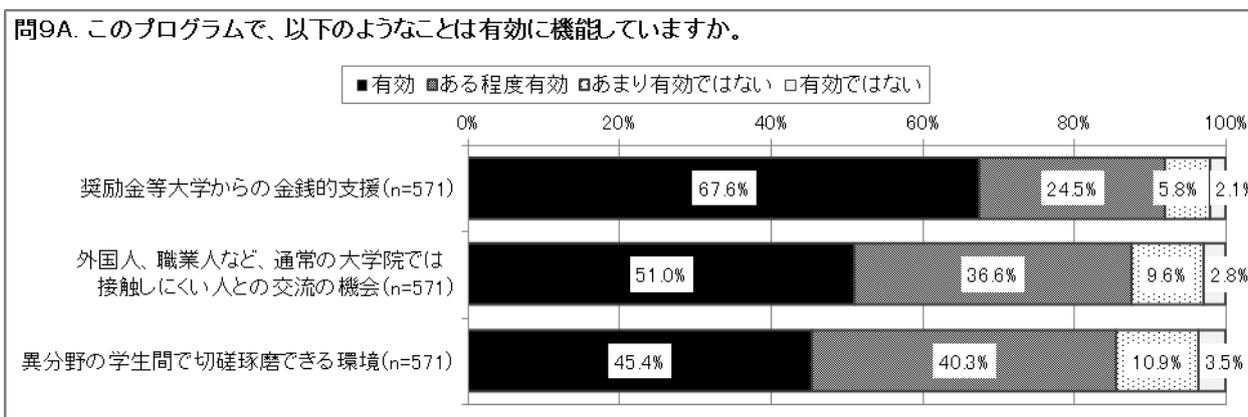


図18 整備された環境の有効性 (n=571)

## 6. 経験の有無と有効性（問9B）

プログラムで用意された活動に参加したか（図19）、それが有効に機能しているか（図20）について聞いている。

国内外の研修・インターンシップ、留学、その他学外活動のいずれにおいても、「これから参加」と回答した学生の数が、「参加した」と回答した学生を上回っているが、活動に参加した学生はいずれの項目でも90%以上の学生が「有効」又は「ある程度有効」と回答している。特に、「1ヶ月以上」の国内・海外での研修・インターンシップ、及び「3ヶ月以上1年未満」の留学については、「有効」と回答した学生のみで90%を上回っている。

### プログラムでの経験

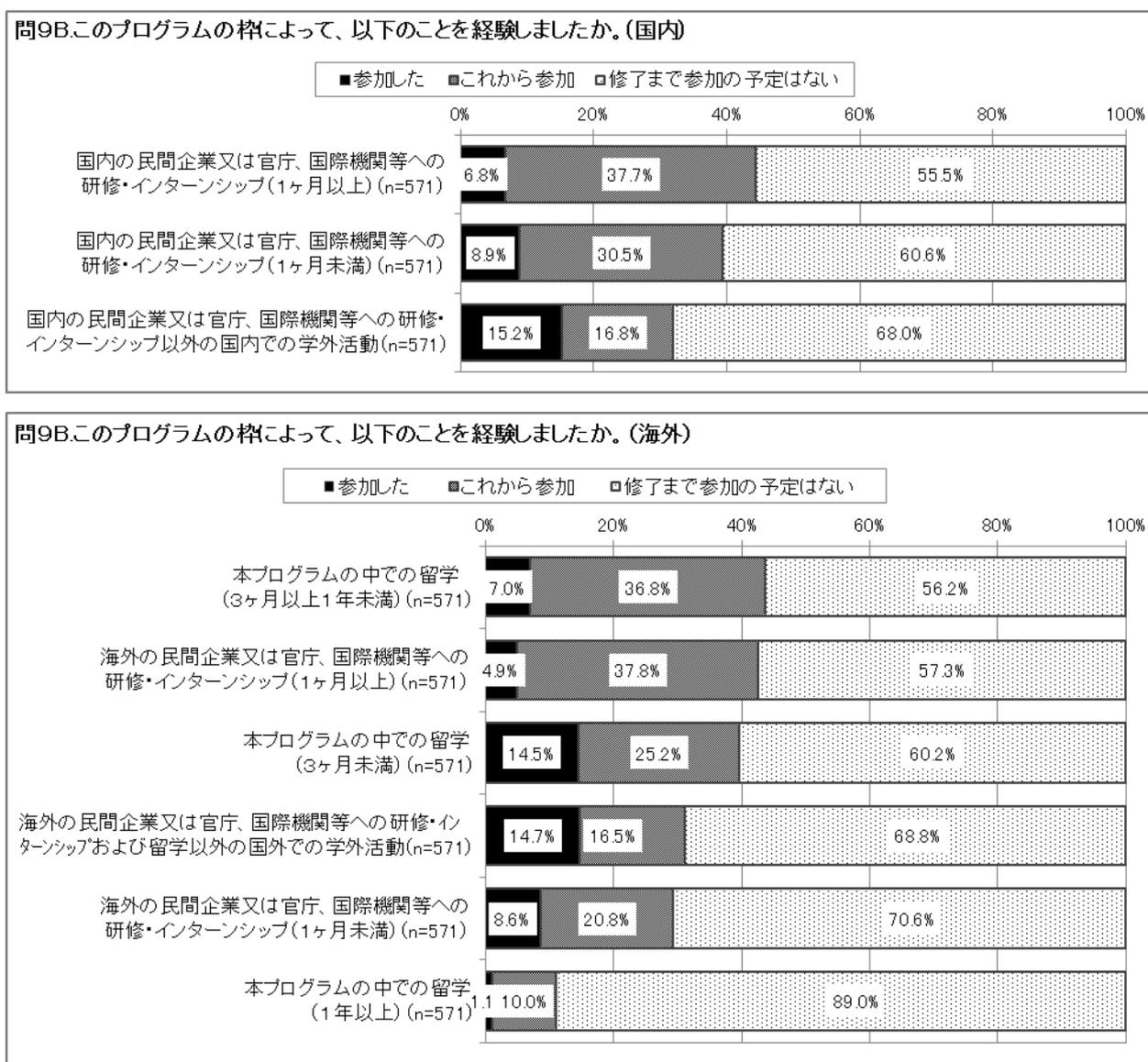


図19 プログラムでの経験 (n=571)

## 経験の有効性

< 「参加した」 を選択した場合のみ回答 >

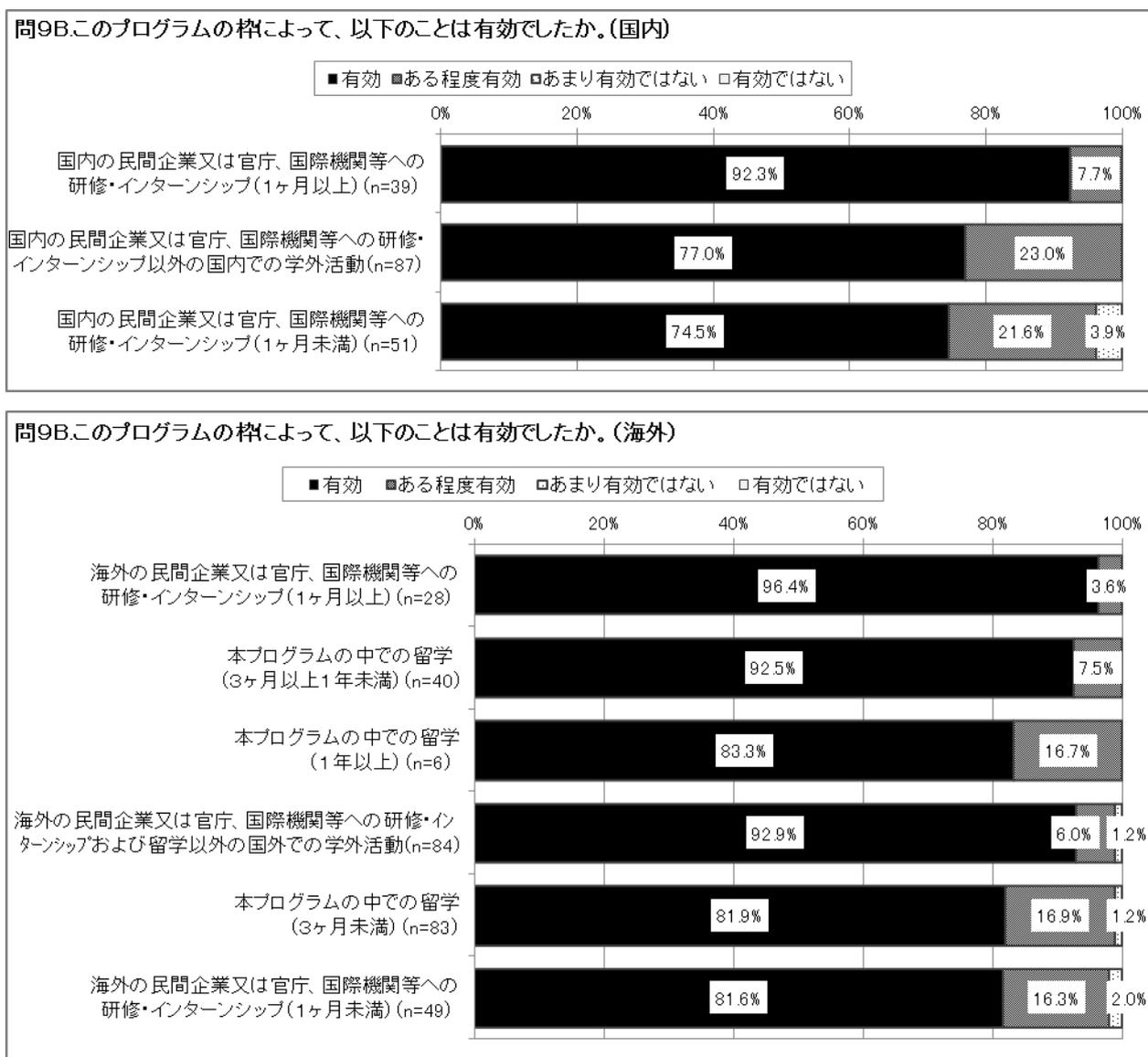


図 20 プログラムでの経験の有効性

## 7. 身に付いた能力（問10）

プログラムに参画することにより身に付いた能力（図21）を聞いている。

「身に付いた」とした回答が最も多かった能力は「他者と協働する力」であり、次いで「専門以外の分野の幅広い知識」、「自ら課題を発見し解決に挑む力」、「高い国際性」となった。「他者と協働する力」については、「非常に身に付いた」と回答した学生も半数以上となっている。

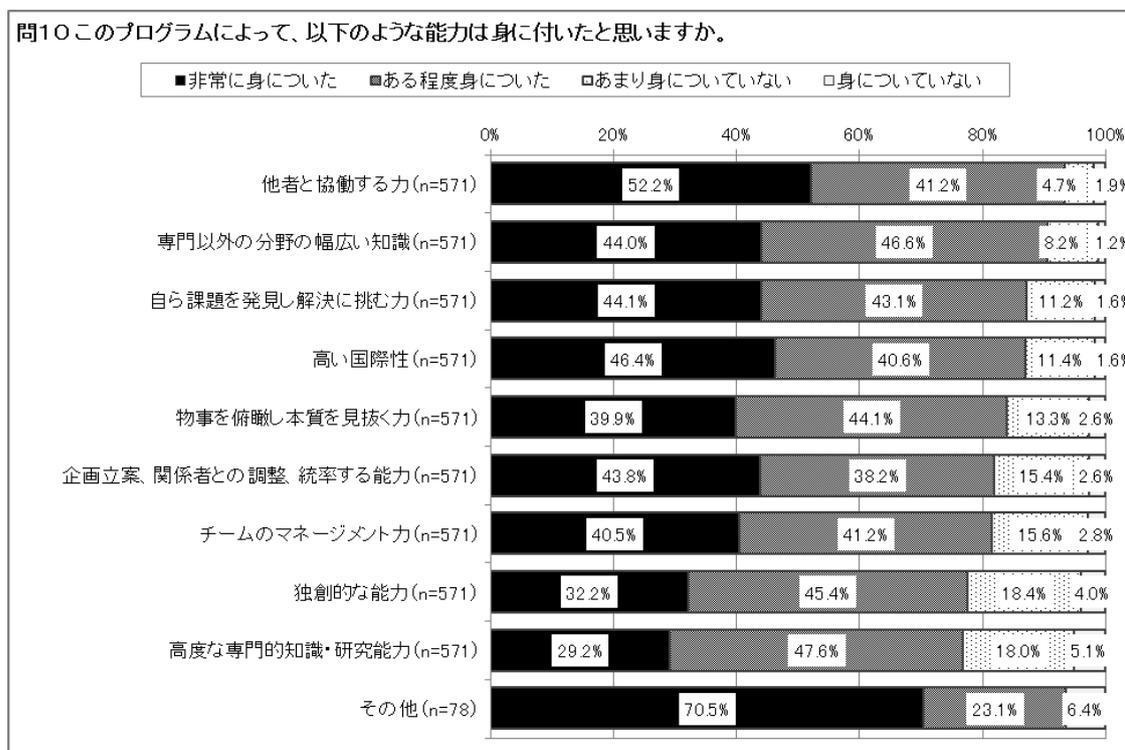


図21 プログラムによって身に付いた能力

## 8. プログラムへの評価（問 1 1）

教員のプログラムへの理解や、プログラムそのものに対する全体的な印象を聞いている（図 2 2）。

80%以上が「後輩にもこのプログラムを勧めたい」、「学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す可能性が大きい」、について「非常にそう思う」又は「そう思う」と回答している。一方で、プログラムについての教員間での理解の共有や、一部の教員への負担の集中については、厳しい評価も一定数見られる。

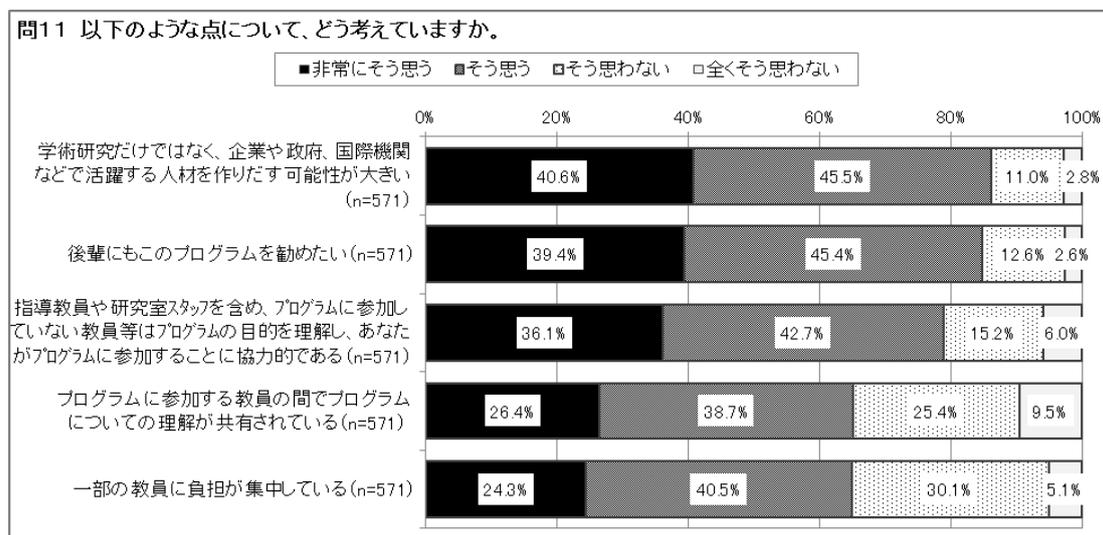


図 22 プログラムへの評価 (n=571)

## 9. プログラムの効果・負担（問 1 2）

プログラム参加による研究面やキャリア面での効果と負担について聞いている（図 2 3）。

「自身の研究に新たな示唆・知見」が得られることについては約90%が肯定的に回答している。「修了後の進路」への不安や、「所属研究室において、自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられるか」への不安、さらに、「所属研究室での指導とこのプログラムでの指導」による二重負担については、肯定と否定で回答が半数ずつに分かれており、いずれも「非常にそう思う」又は「全くそう思わない」の回答が一定数見られることから、学生によってややばらつきがあると言える。

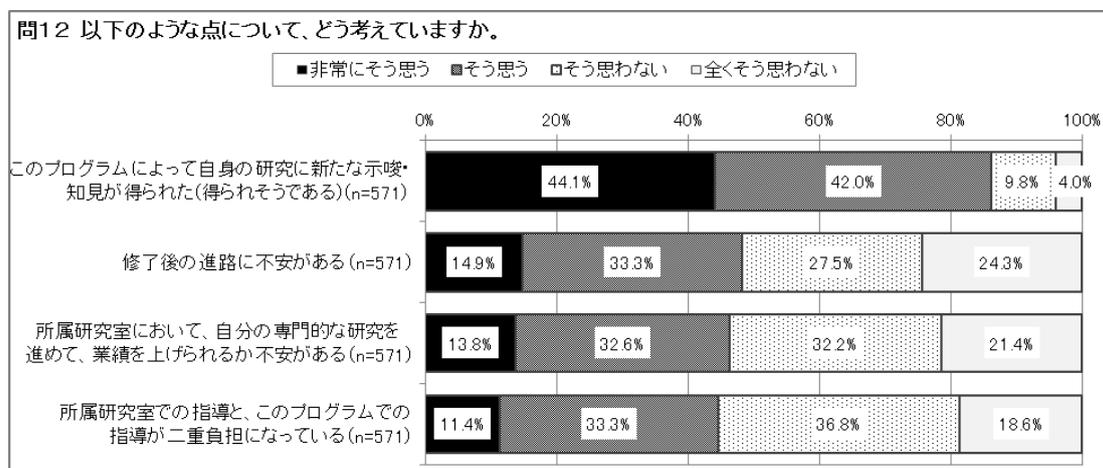


図 23 プログラムの効果・負担 (n=571)

### 10. 修了後の進路（問13）

入学時、アンケート回答時点（現在）の希望および決定した進路について聞いている（図24～図27）。

入学時及びアンケート回答時点のいずれも、「大学（海外を含む）」、「民間企業」、「その他公的機関（海外を含む）」の研究職を選択した学生が多く、両者で全体的な傾向に大きな差は見られない。しかし、大学院入学時点で希望者が少なかった「国際機関」や「起業」、「官公庁」等については、「現在の希望」においては増加しており、学生の選択肢が多様になっている。

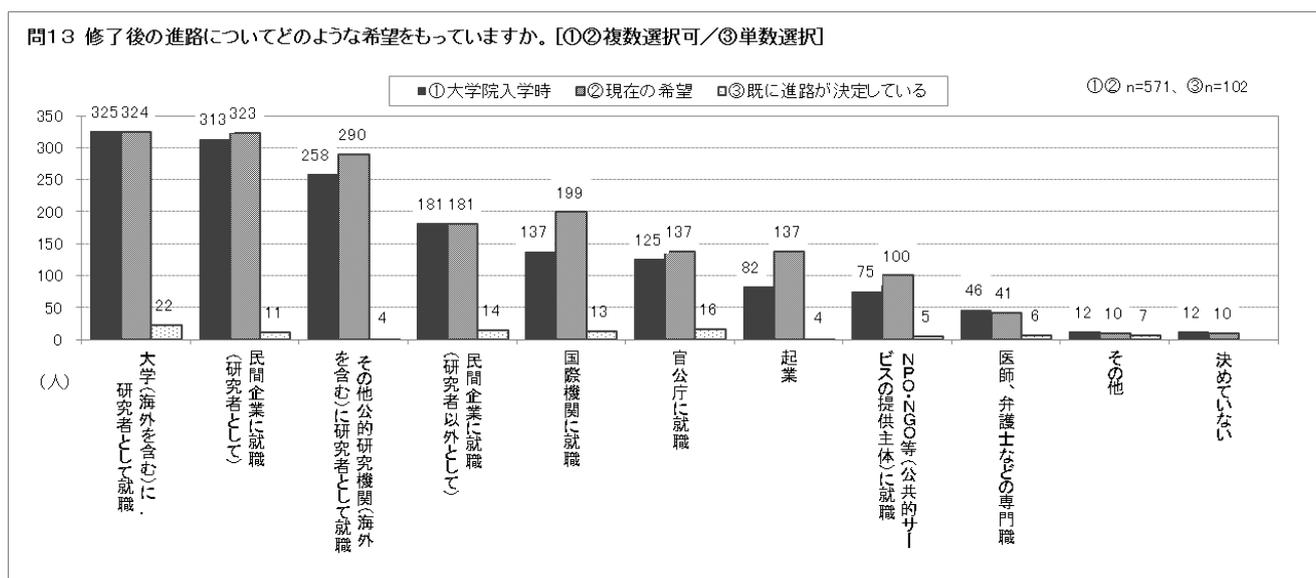


図24 ①大学院入学時、②現在の希望、③進路決定済み比較（①②n=571、③n=102）

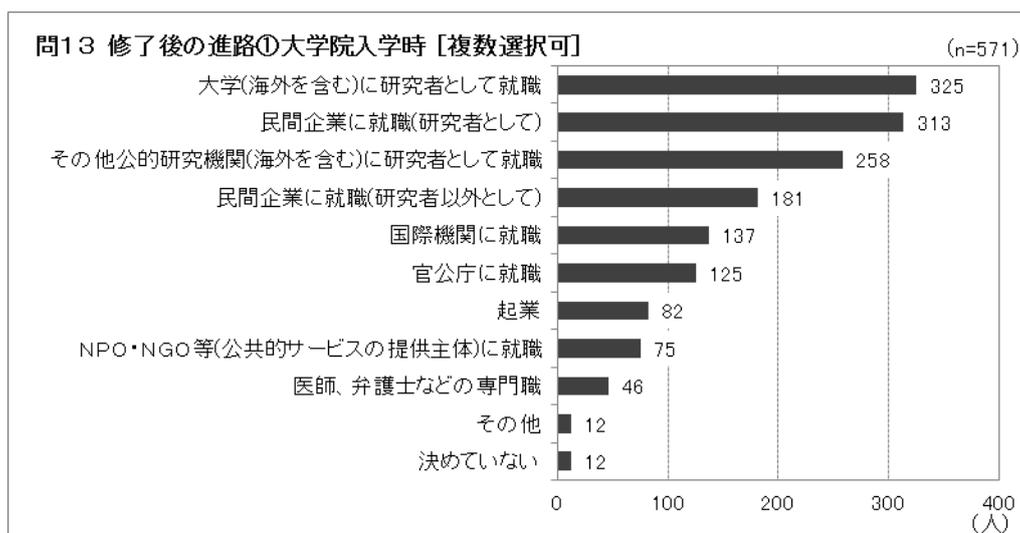


図25 大学院入学時の修了後の進路の希望（n=571）

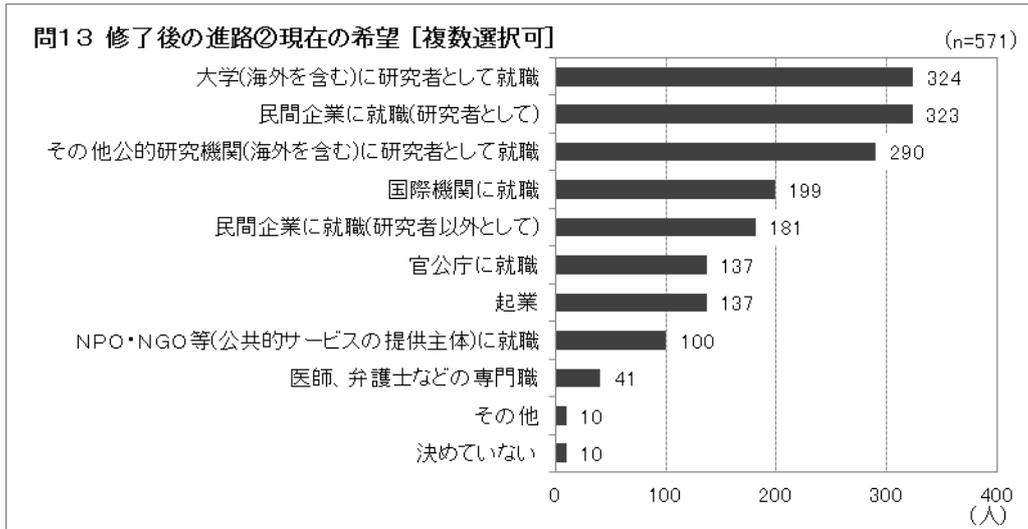


図 26 アンケート回答時点での修了後の進路の希望 (n=571)

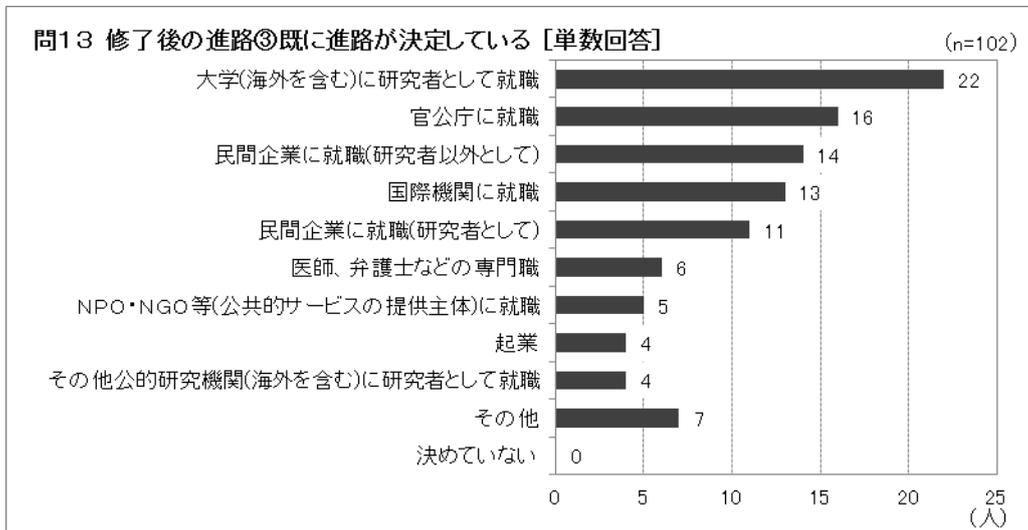
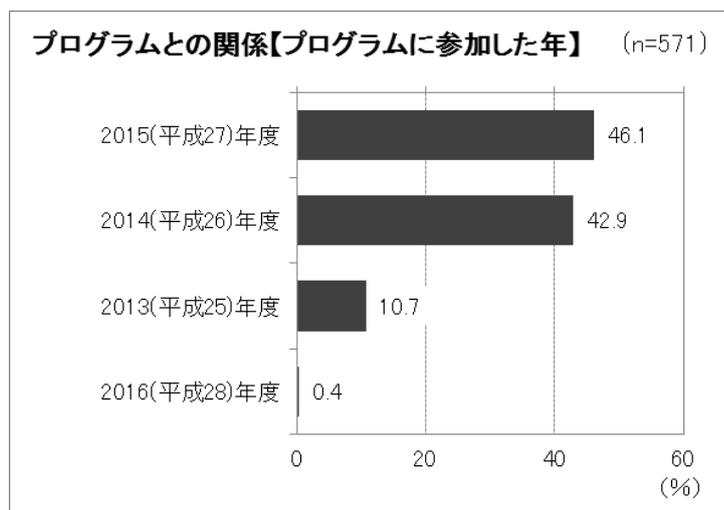
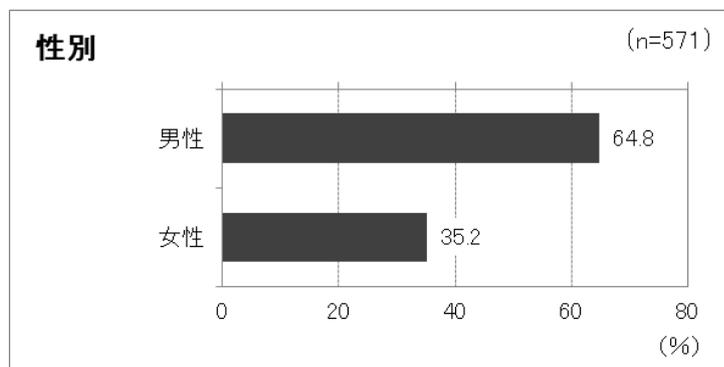
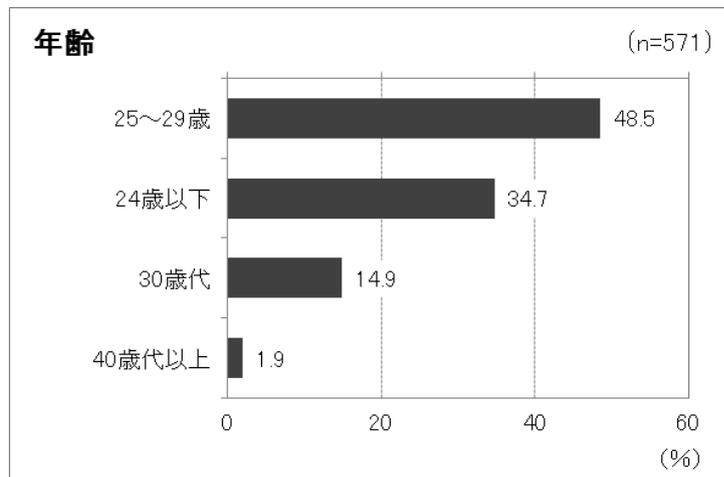
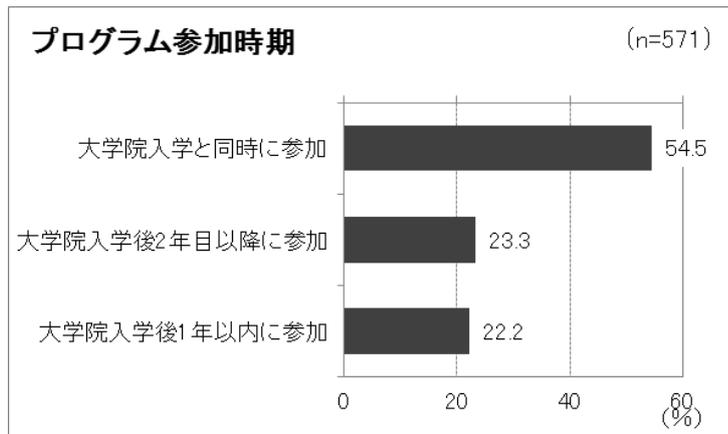
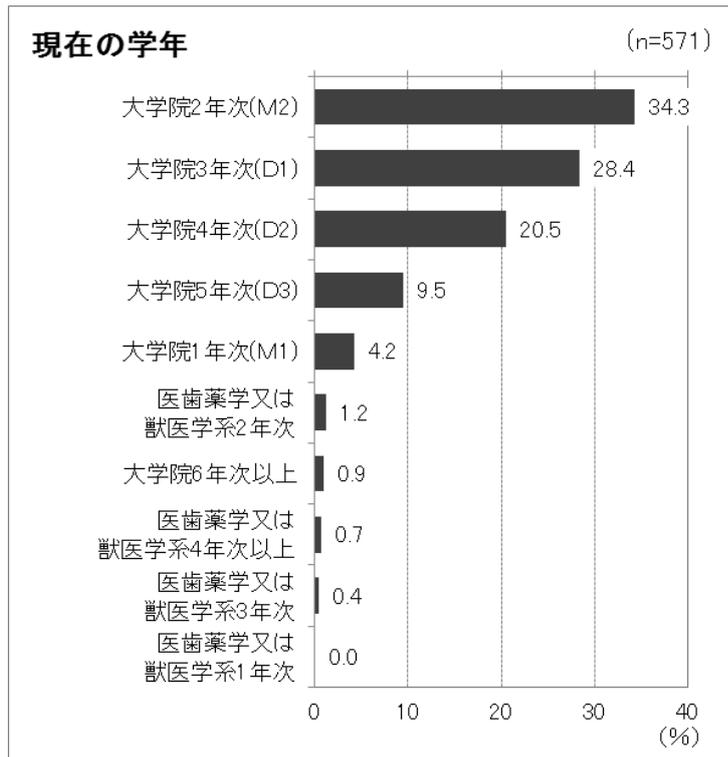


図 27 既に決定している進路 (n=102)

## 1 1. 学生の属性（問 2， 3， 4， 5）

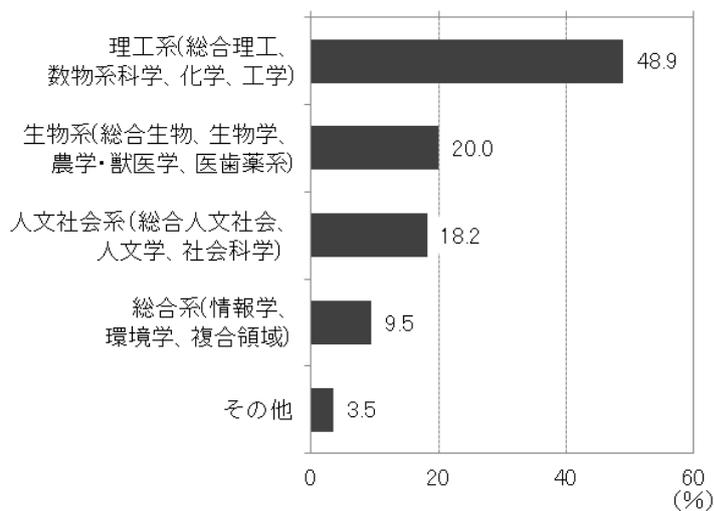
本項目では、回答した学生の属性について、設問ごとにその割合を掲載する。





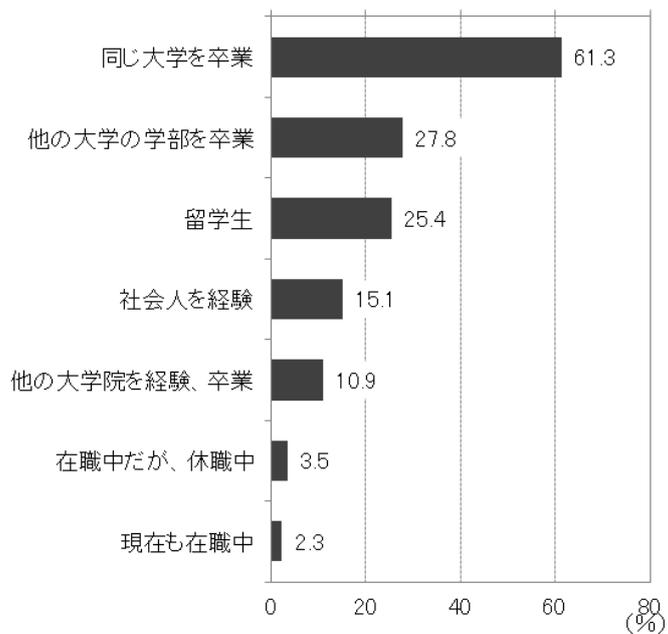
### 学位論文の執筆を予定している分野

(n=571)



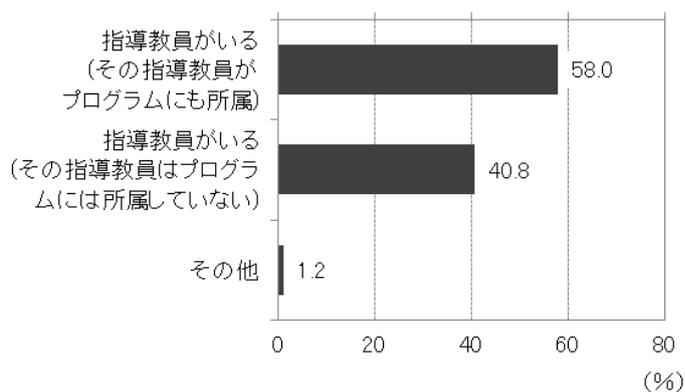
### 経歴 [複数選択可]

(n=571)



### あなたの指導教員と、プログラムとの関係

(n=571)



## 1.2. プログラム情報の獲得方法（問17）

本項目では、プログラムをどのようにして知ったかについて、回答（任意回答）を選択した人数を掲載する（図28）。

本設問（複数選択可）では、過半数（約54%）が「プログラム担当者の教員」を選択しており、次いで「大学で行われた説明会・シンポジウム等」にも半数弱（約46%）が回答している。「学内の友人・知人」といった身近な人物や、ホームページ・リーフレット等の広報媒体からプログラムを知ったという学生も一定数見られる。

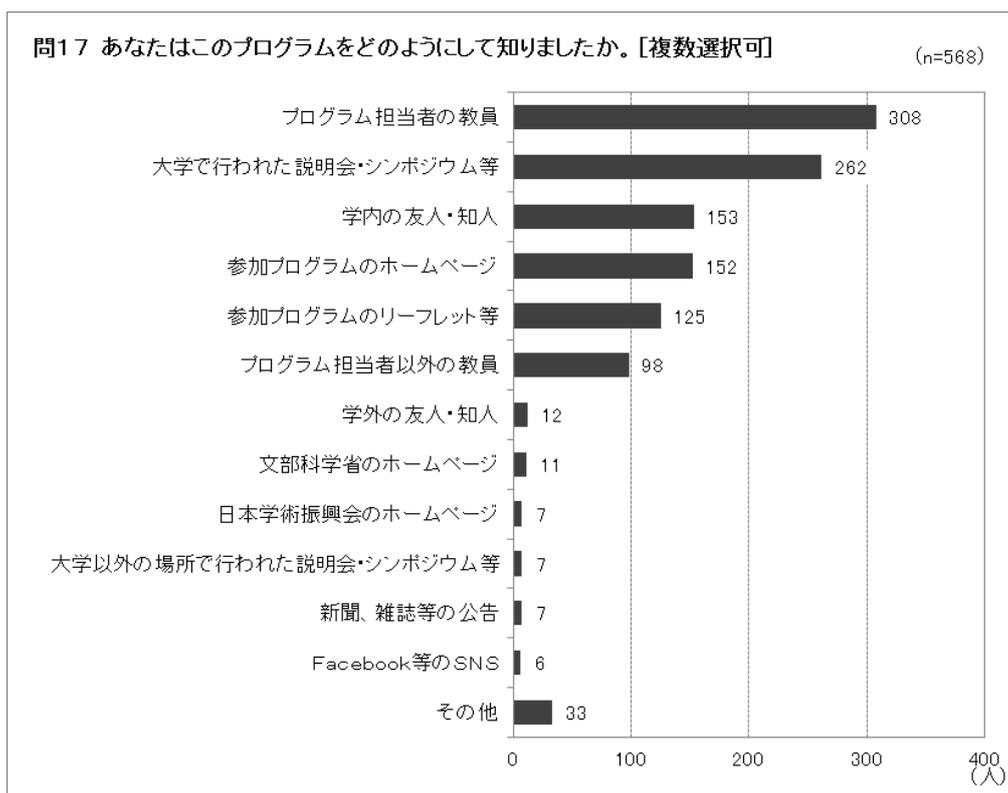


図28 プログラム情報の獲得方法 (n=568)

## 附録A サンプルと回答者数

類型	機関名	プログラム名称	学生			プログラム担当者		
			対象者	回答者	回答率	対象者	回答者	回答率
オールラウンド型	P01 東京大学	社会構想マネジメントを先導するグローバルリーダー養成プログラム	86	82	95.3%	19	19	100.0%
	P02 九州大学	持続可能な社会を拓く決断科学大学院プログラム	52	48	92.3%	21	17	81.0%
複合領域型 (物質)	Q01 北海道大学	物質科学フロンティアを開拓するAmbitiousリーダー育成プログラム	41	40	97.6%	19	13	68.4%
	Q02 東北大学	マルチディメンジョン物質理工学リーダー養成プログラム	44	43	97.7%	23	23	100.0%
	Q03 大阪府立大学	システム発想型物質科学リーダー養成学位プログラム	37	37	100.0%	32	29	90.6%
複合領域型 (情報)	R01 筑波大学	エンパワーメント情報学プログラム	23	23	100.0%	20	19	95.0%
	R02 名古屋大学	実世界データ循環学リーダー人材養成プログラム	26	26	100.0%	19	18	94.7%
	R03 豊橋技術科学大学	超大規模脳情報を高度に技術するブレイン情報アーキテクトの育成	12	12	100.0%	18	9	50.0%
	R04 早稲田大学	実体情報学博士プログラム	31	30	96.8%	13	12	92.3%
複合領域型 (多文化共生社会)	S01 東京大学	多文化共生・統合人間学プログラム	44	44	100.0%	25	18	72.0%
	S02 名古屋大学	「ウェルビーイングinアジア」実現のための女性リーダー育成プログラム	36	35	97.2%	21	19	90.5%
	S03 広島大学	たおやかで平和な共生社会創生プログラム	33	30	90.9%	19	14	73.7%
複合領域型 (横断的テーマ)	T01 東京大学	活力ある超高齢社会を共創するグローバルリーダー養成プログラム	48	41	85.4%	22	15	68.2%
	T02 お茶の水女子大学	「みがかずば」の精神に基づきイノベーションを創出し続ける理工系グローバルリーダーの育成	14	14	100.0%	18	16	88.9%
オンリーワン型	U01 政策研究大学院大学	グローバル秩序変容時代のリーダー養成プログラム	23	23	100.0%	10	10	100.0%
	U02 信州大学	ファイバーレスナンスを先導するグローバルリーダーの養成	18	18	100.0%	12	11	91.7%
	U03 滋賀医科大学	アジア非感染性疾患(NCD)超克プロジェクト	9	9	100.0%	11	10	90.9%
	U04 京都大学	霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院	17	16	94.1%	19	19	100.0%
平成25年度採択プログラム総計			594	571	<b>96.1%</b>	341	291	<b>85.3%</b>

注)

- ・プログラム担当者（プログラム責任者、プログラムコーディネーターを除く）のうち3割程度を博士課程教育リーディングプログラム委員会事務局により無作為に抽出し、調査の対象者とした。
- ・学生の対象者には休学中の者を含む。

博士課程教育リーディングプログラム  
平成25年度採択プログラム中間評価  
**プログラム担当者アンケート調査**

- この調査は博士課程教育リーディングプログラム（注）の平成25年度採択プログラムの中間評価の一環として実施するものです。採択されたプログラムを担当しておられる大学院教員の方、および学外から協力いただいている方にご意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省の施策の検討の参考とします。
- いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることはありません。調査結果については、プログラムの改善に資するため、記入した個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合などの処理を行った上で、当該大学に対し情報提供を行うとともに、集計結果を個人等が特定されない範囲で公表することもあります。
- この調査の実施は、各大学の協力のもとに、文部科学省の指導の下、独立行政法人日本学術振興会が Transbird 株式会社に委託して行います。

注 <博士課程教育リーディングプログラムとは>

優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院（リーディング大学院）の形成を推進する事業です。

- 回答は URL を通じてください→ <https://www.tbird-q.com/plgs2016/worksheet.php>
- 5月23日（月）までにご回答ください
- 本アンケートに関するお問い合わせ先  
Transbird 株式会社（トランスバード株式会社） 担当者：太田  
Email : jsps-q@transbird.com

## 担当されているプログラムと、御自身についてうかがいます

問1 担当している大学・プログラム名。表示されている内容を確認してください。

全体

問2 年齢、性別についてご記入ください。

年齢	1. 20・30歳代	2. 40歳代	3. 50歳代	4. 60歳代以上
	33人 (11.3%)	72人 (24.7%)	119人 (40.9%)	67人 (23.0%)
性別	1. 女性	2. 男性		
	48人 (16.5%)	243人 (83.5%)		

問3 プログラムとの関係（それぞれ一つを選択）

プログラムに参加した年 【複数選択】	1. 2013(平成25)年度	2. 2014(平成26)年度	3. 2015(平成27)年度	4. 2016(平成28)年度
	189人 (64.9%)	230人 (79.0%)	243人 (83.5%)	227人 (78.0%)

エフォート 申請書に記載 されたもの (ひとつク リック)	1. 1割未満	2. 1割以上2割未満	3. 2割以上3割未満	4. 3割以上4割未満	5. 4割以上5割未満
	92人 (31.6%)	90人 (30.9%)	37人 (12.7%)	2人 (0.7%)	3人 (1.0%)
	6. 5割以上6割未満	7. 6割以上7割未満	8. 7割以上8割未満	9. 8割以上9割未満	10. 9割以上
	3人 (1.0%)	1人 (0.3%)	3人 (1.0%)	1人 (0.3%)	8人 (2.7%)
	11. 採択された後にプログラム担当者になった				
	51人 (17.5%)				

エフォート 平成27年度 の実績 (ひとつク リック)	1. 1割未満	2. 1割以上2割未満	3. 2割以上3割未満	4. 3割以上4割未満	5. 4割以上5割未満
	122人 (41.9%)	91人 (31.3%)	34人 (11.7%)	4人 (1.4%)	3人 (1.0%)
	6. 5割以上6割未満	7. 6割以上7割未満	8. 7割以上8割未満	9. 8割以上9割未満	10. 9割以上
	7人 (2.4%)	2人 (0.7%)	4人 (1.4%)	4人 (1.4%)	20人 (6.9%)

本プログラムの 学生に直接 に接する頻度	1. 日常的	2. 週に1回程度	3. 月に1~2回程度	4. 年に1回~数回	5. 直接には接しない
	89人 (30.6%)	50人 (17.2%)	41人 (14.1%)	83人 (28.5%)	28人 (9.6%)

所属 (本務)	1. 当該大学院・参画研究科・専攻等 (プログラムの経費により雇用されている者を除く)	2. 当該大学院・参画研究科・専攻等 (プログラムの経費による雇用)	3. 当該大学 (1、2以外)	4. 他大学	5. 研究機関
	165人 (56.7%)	39人 (13.4%)	30人 (10.3%)	18人 (6.2%)	14人 (4.8%)
	6. 民間企業	7. 政府・自治体	8. 国際機関	9. その他	
	15人 (5.2%)	2人 (0.7%)	2人 (0.7%)	6人 (2.1%)	

9. その他 (自由記述)

問4 このプログラムではどのようなことを担当されていますか(あてはまる項目すべてをクリック)

1	単独で講義を担当	85人 (29.2%)	7	学生募集・入学者選抜	106人 (36.4%)
2	単独で演習を担当	36人 (12.4%)	8	就職支援	24人 (8.2%)
3	協同講義、演習への参加	137人 (47.1%)	9	プログラムの企画、カリキュラムの作成	108人 (37.1%)
4	個別学生の研究指導	136人 (46.7%)	10	インターンシップ	41人 (14.1%)
5	学生のメンター	94人 (32.3%)	11	広報	43人 (14.8%)
6	留学プログラム	25人 (8.6%)	12	その他	60人 (20.6%)

別に特に担当されていることがあれば、ご記入ください

具体的に書いてください

## プログラムの実施状況について感想をうかがいます

問5 このプログラムで、先生は下のような指導を行われていますか。また、行っている場合はそれは有効ですか。(それぞれ該当する回答をクリック。カリキュラムにない場合や今後行う場合は「行っていない」に該当。)

	行っている			有効か			
	よく行っている	行っている	行っていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
指導学生以外の学生への指導	55人 (18.9%)	115人 (39.5%)	121人 (41.6%)	100人 (58.8%)	70人 (41.2%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
主専攻以外の分野の学生を対象とした授業等	42人 (14.4%)	120人 (41.2%)	129人 (44.3%)	87人 (53.7%)	70人 (43.2%)	4人 (2.5%)	1人 (0.6%)
研究室ローテーションの受け入れ ※名称は問わない(研究室に一定期間滞在するなど、異分野の専門的な知識を身に付ける機会を指す。)	26人 (8.9%)	77人 (26.5%)	188人 (64.6%)	64人 (62.1%)	35人 (34.0%)	3人 (2.9%)	1人 (1.0%)
プロジェクト形式による授業や課題	38人 (13.1%)	79人 (27.1%)	174人 (59.8%)	72人 (61.5%)	44人 (37.6%)	0人 (0.0%)	1人 (0.9%)
メンター等としての授業外のサポート	46人 (15.8%)	109人 (37.5%)	136人 (46.7%)	84人 (54.2%)	65人 (41.9%)	5人 (3.2%)	1人 (0.6%)

問6 このプログラムで、下のようなことは実施、あるいは整備されていますか。また1～3を選択した場合、それは有効に機能していますか。(それぞれ該当する回答をクリック。プログラムのカリキュラムにない場合や今後行う場合は「されていない」に該当。)

	整備されているか				有効か			
	十分に されている	ある程度 されている	されてい ない	分からな い	有効	ある程度 有効	あまり有 効ではな い	有効では ない
企業、政府機関など学外者からの指導	147人 (50.5%)	94人 (32.3%)	2人 (0.7%)	48人 (16.5%)	170人 (70.5%)	69人 (28.6%)	1人 (0.4%)	1人 (0.4%)
産業界、官界、NPO、国際機関など、 教育研究機関以外へのキャリアパス具 体化のための情報提供 例：産学共同研究、産業界等の講師を招いた セミナー等	160人 (55.0%)	87人 (29.9%)	2人 (0.7%)	42人 (14.4%)	172人 (69.6%)	69人 (27.9%)	4人 (1.6%)	2人 (0.8%)
奨励金等大学からの金銭的支援	171人 (58.8%)	73人 (25.1%)	3人 (1.0%)	44人 (15.1%)	195人 (79.9%)	48人 (19.7%)	1人 (0.4%)	0人 (0.0%)
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例：学生の交流スペース、合同のセミナー 等	196人 (67.4%)	67人 (23.0%)	2人 (0.7%)	26人 (8.9%)	205人 (77.9%)	55人 (20.9%)	2人 (0.8%)	1人 (0.4%)
外国人、職業人など、通常の大学院では 接触しにくい人との交流の機会	198人 (68.0%)	66人 (22.7%)	3人 (1.0%)	24人 (8.2%)	199人 (75.4%)	63人 (23.9%)	1人 (0.4%)	1人 (0.4%)
国内の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップ（1月未満）	87人 (29.9%)	100人 (34.4%)	33人 (11.3%)	71人 (24.4%)	116人 (62.0%)	67人 (35.8%)	3人 (1.6%)	1人 (0.5%)
国内の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップ（1月以上）	95人 (32.6%)	79人 (27.1%)	27人 (9.3%)	90人 (30.9%)	117人 (67.2%)	52人 (29.9%)	3人 (1.7%)	2人 (1.1%)
国内の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップ以外の国内で の学外活動 ※1	80人 (27.5%)	68人 (23.4%)	27人 (9.3%)	116人 (39.9%)	106人 (71.6%)	39人 (26.4%)	2人 (1.4%)	1人 (0.7%)
※1 「十分にされている」、「ある程度されている」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記述してください。								
海外の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップ（1月未満）	98人 (33.7%)	70人 (24.1%)	31人 (10.7%)	92人 (31.6%)	118人 (70.2%)	46人 (27.4%)	3人 (1.8%)	1人 (0.6%)
海外の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップ（1月以上）	107人 (36.8%)	65人 (22.3%)	22人 (7.6%)	97人 (33.3%)	130人 (75.6%)	39人 (22.7%)	3人 (1.7%)	0人 (0.0%)
本プログラムの中での留学	102人 (35.1%)	65人 (22.3%)	37人 (12.7%)	87人 (29.9%)	111人 (66.5%)	54人 (32.3%)	2人 (1.2%)	0人 (0.0%)
海外の民間企業又は官庁、国際機関等へ の研修・インターンシップおよび留学以 外の国外での学外活動 ※2	77人 (26.5%)	55人 (18.9%)	33人 (11.3%)	126人 (43.3%)	98人 (74.2%)	31人 (23.5%)	3人 (2.3%)	0人 (0.0%)
※2 「十分にされている」、「ある程度されている」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記述してください。								

問7 このプログラムは、学生に以下のような資質を身につけさせるのに、どの程度有効ですか。

	非常に有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
高度な専門的知識・研究能力	138人 (47.4%)	123人 (42.3%)	21人 (7.2%)	9人 (3.1%)
高い国際性	211人 (72.5%)	73人 (25.1%)	7人 (2.4%)	0人 (0.0%)
専門以外の分野の幅広い知識	183人 (62.9%)	99人 (34.0%)	9人 (3.1%)	0人 (0.0%)
物事を俯瞰し本質を見抜く力	157人 (54.0%)	114人 (39.2%)	17人 (5.8%)	3人 (1.0%)
自ら課題を発見し解決に挑む力	193人 (66.3%)	84人 (28.9%)	12人 (4.1%)	2人 (0.7%)
独創的な能力	125人 (43.0%)	127人 (43.6%)	31人 (10.7%)	8人 (2.7%)
チームのマネージメント力	159人 (54.6%)	109人 (37.5%)	20人 (6.9%)	3人 (1.0%)
企画立案、関係者との調整、統率する能力	164人 (56.4%)	106人 (36.4%)	18人 (6.2%)	3人 (1.0%)
他者と協働する力	201人 (69.1%)	74人 (25.4%)	15人 (5.2%)	1人 (0.3%)
その他（具体的に： )	60人 (84.5%)	6人 (8.5%)	1人 (1.4%)	4人 (5.6%)

問8 運営・管理の面で、以下の点についてどう考えられていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう思わない	全くそう 思わない
産業界、行政機関、NPO等によるプログラムへの参画と就職先に関する情報提供が行われている	124人 (42.6%)	138人 (47.4%)	27人 (9.3%)	2人 (0.7%)
学長のリーダーシップが発揮されている	102人 (35.1%)	146人 (50.2%)	38人 (13.1%)	5人 (1.7%)
コストを意識した運営がなされている	118人 (40.5%)	147人 (50.5%)	22人 (7.6%)	4人 (1.4%)
学内外へのプログラム内容や成果の広報が積極的に行われている	163人 (56.0%)	110人 (37.8%)	16人 (5.5%)	2人 (0.7%)

問9 以下の点について、どう考えられていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう思わない	全くそう 思わない
プログラム担当者間でのプログラムについての理解の共有ができています	107人 (36.8%)	152人 (52.2%)	28人 (9.6%)	4人 (1.4%)
一部の教員に負担が集中している	40人 (13.7%)	149人 (51.2%)	95人 (32.6%)	7人 (2.4%)
プログラム担当者以外の教員の理解があり、協力的である	58人 (19.9%)	162人 (55.7%)	60人 (20.6%)	11人 (3.8%)
大学の執行部が、プログラムの目的を理解し、協力的である	131人 (45.0%)	139人 (47.8%)	20人 (6.9%)	1人 (0.3%)
優秀な学生が多数入学している	128人 (44.0%)	146人 (50.2%)	10人 (3.4%)	7人 (2.4%)
今後優秀な学生をより多く獲得できる	111人 (38.1%)	147人 (50.5%)	27人 (9.3%)	6人 (2.1%)
学生はプログラムの意図を良く理解している	125人 (43.0%)	147人 (50.5%)	18人 (6.2%)	1人 (0.3%)
学生にとって、将来の進路が明確になっている	78人 (26.8%)	154人 (52.9%)	55人 (18.9%)	4人 (1.4%)
学術研究だけでなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作りだす見込みがある	151人 (51.9%)	123人 (42.3%)	17人 (5.8%)	0人 (0.0%)
このプログラムによって、大学院制度の改善に大きな示唆が得られている	107人 (36.8%)	133人 (45.7%)	44人 (15.1%)	7人 (2.4%)
このプログラムが補助期間終了後も大学の独自財源により持続的に運営される見通しがある	47人 (16.2%)	162人 (55.7%)	69人 (23.7%)	13人 (4.5%)
これから進学を考えている学生にこのプログラムを勧めたい	144人 (49.5%)	121人 (41.6%)	20人 (6.9%)	6人 (2.1%)

## プログラムの改善のための方策についてうかがいます

問10-1 このプログラムにおいてあなたが担当する指導・支援方法の改善のため、学生等による評価やアンケート(紙面やパソコン上のデータとして記録・保存をしているもの)を行っていますか。下記から一つ選択してください。

1	担当する全ての役割等において実施している	50人 (17.2%)
2	担当する一部の役割等において実施している	107人 (36.8%)
3	実施していない	134人 (46.0%)

【1または2と回答した方のみお答えください】

問10-2 上記評価やアンケートの結果を踏まえ、具体的に改善を図った内容があれば、その内容についてお答えください。

問11 以下の点について、どう考えられていますか。

	非常に そう思う	そう思う	そう 思わない	全くそう 思わない
このプログラムによって学生自身の研究に新たな示唆・知見が得られる(得られそうである)	158人 (54.3%)	116人 (39.9%)	15人 (5.2%)	2人 (0.7%)
学生にとって、所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が二重負担になっている	24人 (8.2%)	69人 (23.7%)	159人 (54.6%)	39人 (13.4%)
プログラムに参画している学生は所属研究室において専門的な研究を進めて、業績を上げられるか懸念がある	14人 (4.8%)	36人 (12.4%)	175人 (60.1%)	66人 (22.7%)
学生の将来の進路に不安がある	6人 (2.1%)	46人 (15.8%)	139人 (47.8%)	100人 (34.4%)

## 全般的なご意見をうかがいます

問12 この質問票でお尋ねした点、あるいは、それ以外にも、このプログラムについてお考えがあれば、ご意見を自由にお書きください

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 ( はい ・ いいえ )

**調査項目はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。**

博士課程教育リーディングプログラム  
平成25年度採択プログラム中間評価  
**学生アンケート調査**

- この調査は博士課程教育リーディングプログラム（注）の平成25年度採択プログラムの中間評価の一環として実施するものです。採択されたプログラムに参加する皆さん（大学により各プログラムに選抜された学生）にご意見をうかがい、各プログラムの評価・改善に役立てると同時に、文部科学省の施策の検討の参考とします。
- いただいた回答はすべて統計的に処理され、個人についての情報が他の目的で使われることはありません。調査結果については、プログラムの改善に資するため、記入した個人が特定されないよう固有名詞の削除や複数の類似意見の統合などの処理を行った上で、当該大学に対し情報提供を行うとともに、集計結果を個人等が特定されない範囲で公表することもあります。
- この調査の実施は、各大学の協力のもとに、文部科学省の指導の下、独立行政法人日本学術振興会が Transbird 株式会社に委託して行います。

注 <博士課程教育リーディングプログラムとは>

優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーへと導くため、国内外の第一級の教員・学生を結集し、産・学・官の参画を得つつ、専門分野の枠を超えて博士課程前期・後期一貫した世界に通用する質の保証された学位プログラムを構築・展開する大学院教育の抜本的改革を支援し、最高学府に相応しい大学院（リーディング大学院）の形成を推進する事業です。

- 回答は URL を通じてください→<https://www.tbird-q.com/plgs2016/worksheet.php>
- **5月23日（月）まで**にご回答ください
- 本アンケートに関するお問い合わせ先  
Transbird 株式会社（トランスバード株式会社） 担当者：太田  
Email : jsps-q@transbird.com

**参加されているプログラムと、御自身についてうかがいます**

問1 参加している大学・プログラム名。表示されている内容を確認してください。

全体

問2 年齢、性別についてご記入ください。

年齢	1. 24歳以下	2. 25～29歳	3. 30歳代	4. 40歳代以上
	198人 (34.7%)	277人 (48.5%)	85人 (14.9%)	11人 (1.9%)
性別	1. 女性	2. 男性		
	201人 (35.2%)	370人 (64.8%)		

問3 プログラムとの関係（それぞれ一つを選択）

プログラムに参加した年	1. 2013(平成25)年度	2. 2014(平成26)年度	3. 2015(平成27)年度	4. 2016(平成28)年度
	61人 (10.7%)	245人 (42.9%)	263人 (46.1%)	2人 (0.4%)

現在の学年	1. 大学院1年次 (M1)	2. 大学院2年次 (M2)	3. 大学院3年次 (D1)	4. 大学院4年次 (D2)	5. 大学院5年次 (D3)
	24人 (4.2%)	196人 (34.3%)	162人 (28.4%)	117人 (20.5%)	54人 (9.5%)
	6. 大学院6年次以上	7. 医歯薬学又は獣医学系1年次	8. 医歯薬学又は獣医学系2年次	9. 医歯薬学又は獣医学系3年次	10. 医歯薬学又は獣医学系4年次以上
	5人 (0.9%)	0人 (0.0%)	7人 (1.2%)	2人 (0.4%)	4人 (0.7%)

入学時からこのプログラムに参加したか	1. 大学院入学と同時に参加	2. 大学院入学後1年以内に参加	3. 大学院入学後2年目以降に参加
	311人 (54.5%)	127人 (22.2%)	133人 (23.3%)

学位論文の執筆を予定している分野	1. 総合系 (情報学、環境学、複合領域)	2. 人文社会系 (総合人文社会、人文学、社会科学)	3. 理工系 (総合理工、数物系科学、化学、工学)	4. 生物系 (総合生物、生物学、農学・獣医学、医歯薬系)	5. その他
	54人 (9.5%)	104人 (18.2%)	279人 (48.9%)	114人 (20.0%)	20人 (3.5%)

5. その他 (自由記述)

問4 あなたの経歴についてあてはまるものすべてにチェックしてください。

1	同じ大学を卒業	350人 (61.3%)	5	社会人を経験	86人 (15.1%)
2	留学生	145人 (25.4%)	6	現在も在職中	13人 (2.3%)
3	他の大学の学部を卒業	159人 (27.8%)	7	在職中だが、休職中	20人 (3.5%)
4	他の大学院を経験、卒業	62人 (10.9%)			

問5 あなたの指導教員(専門分野における研究指導を主に行う教員1名)と、プログラムとの関係(あてはまるものに○)

1	指導教員がいる - その指導教員がプログラムにも所属	331人 (58.0%)
2	指導教員がいる - その指導教員はプログラムには所属していない	233人 (40.8%)
3	それ以外	7人 (1.2%)

3. その他 (自由記述)

問6-1 あなたがこのプログラムに参加した動機として、あてはまるもの全てにチェックしてください。また、その中で最も直接的な動機に近いもの1つに○をしてください。

	当てはまるもの 全てにチェック	最も近いもの 1つに○
プログラムの目的と自分の目指す将来像が合っている	399人 (69.9%)	85人 (14.9%)
産業界、官界、NPO、国際機関への就職など自分の将来の可能性が広がる	312人 (54.6%)	57人 (10.0%)
通常の博士課程では得られない、幅広い知識や経験が得られる	482人 (84.4%)	140人 (24.5%)
他の研究科（専攻）の学生や教員、留学生など、交流の幅が広がる	423人 (74.1%)	28人 (4.9%)
留学や海外インターンシップなど、海外での経験が積める	377人 (66.0%)	48人 (8.4%)
グローバルな舞台で活躍していくために、Ph.D.が必要	253人 (44.3%)	28人 (4.9%)
経済的な支援が充実している	458人 (80.2%)	148人 (25.9%)
友人・知人や研究室の先輩など、教員以外の人にプログラムを勧められた	124人 (21.7%)	3人 (0.5%)
指導教員などの教員に勧められた（自分の意志で参加）	300人 (52.5%)	15人 (2.6%)
指導教員などの教員に勧められた（断ることができなかった）	25人 (4.4%)	5人 (0.9%)
何となく面白そうだった	283人 (49.6%)	14人 (2.5%)

その他の理由がある場合や、上記を選択した理由などについて自由に記述してください。

問6-2 このプログラムがなかった場合、あなたの最終学位としてどれを選択していましたか。

1	学士（今所属する大学と同じ）	6人 (1.1%)
2	学士（他大学）	2人 (0.4%)
3	修士（今所属する大学と同じ研究科・専攻等）	197人 (34.5%)
4	修士（今所属する大学の別の研究科または専攻等）	11人 (1.9%)
5	修士（他大学）	22人 (3.9%)
6	博士（今所属する大学と同じ研究科・専攻等）	264人 (46.2%)
7	博士（今所属する大学の別の研究科または専攻等）	11人 (1.9%)
8	博士（他大学）	58人 (10.2%)

問7 プログラムの以下のような点をどのように評価されますか。

	非常に 良い	良い	どちらとも 言えない	良いとは 言えない	機会が なかった
他の専門分野の学生との交流	306人 (53.6%)	221人 (38.7%)	32人 (5.6%)	11人 (1.9%)	1人 (0.2%)
他大学の学生との交流	100人 (17.5%)	189人 (33.1%)	139人 (24.3%)	77人 (13.5%)	66人 (11.6%)
専門分野以外の教員との出会い	258人 (45.2%)	227人 (39.8%)	62人 (10.9%)	22人 (3.9%)	2人 (0.4%)
企業人との交流	164人 (28.7%)	215人 (37.7%)	131人 (22.9%)	34人 (6.0%)	27人 (4.7%)
専門分野以外の幅広い知識や経験	259人 (45.4%)	231人 (40.5%)	62人 (10.9%)	17人 (3.0%)	2人 (0.4%)
奨励金などの経済的支援	308人 (53.9%)	188人 (32.9%)	38人 (6.7%)	24人 (4.2%)	13人 (2.3%)
議論することに対する自信をつけること	217人 (38.0%)	225人 (39.4%)	101人 (17.7%)	24人 (4.2%)	4人 (0.7%)
アカデミア以外の分野で活躍することについての自信をつけること	178人 (31.2%)	221人 (38.7%)	133人 (23.3%)	32人 (5.6%)	7人 (1.2%)

## プログラムでの実施状況について感想をうかがいます

問8 このプログラムで、下のような指導を受けましたか。また受けた場合、それは有効ですか。

	よく受けたか			有効か			
	よく受けた	ある程度受けた	受けていない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
指導教員以外の教員からの指導	244人 (42.7%)	290人 (50.8%)	37人 (6.5%)	294人 (55.1%)	207人 (38.8%)	28人 (5.2%)	5人 (0.9%)
企業、政府機関など学外者からの指導、助言	128人 (22.4%)	295人 (51.7%)	148人 (25.9%)	184人 (43.5%)	197人 (46.6%)	34人 (8.0%)	8人 (1.9%)
主専攻以外の分野の授業等の履修	352人 (61.6%)	207人 (36.3%)	12人 (2.1%)	260人 (46.5%)	233人 (41.7%)	55人 (9.8%)	11人 (2.0%)
研究室ローテーション ※名称は問わない（他研究室に一定期間滞在するなど、異分野の専門的な知識を身に付ける機会を指す。）	183人 (32.0%)	132人 (23.1%)	256人 (44.8%)	192人 (61.0%)	99人 (31.4%)	22人 (7.0%)	2人 (0.6%)
プロジェクト形式による授業や課題	278人 (48.7%)	226人 (39.6%)	67人 (11.7%)	265人 (52.6%)	200人 (39.7%)	29人 (5.8%)	10人 (2.0%)
メンター等による授業外のサポート	196人 (34.3%)	275人 (48.2%)	100人 (17.5%)	241人 (51.2%)	186人 (39.5%)	35人 (7.4%)	9人 (1.9%)
産業界、官界、NPO、国際機関など、教育研究機関以外へのキャリアパス具体化のための情報提供 例：産学共同研究、産業界等の講師を招いたセミナー等	188人 (32.9%)	272人 (47.6%)	111人 (19.4%)	205人 (44.6%)	195人 (42.4%)	49人 (10.7%)	11人 (2.4%)

上の理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

問9A. このプログラムで、下のようなことは整備され、経験していますか。またそれは有効に機能していますか。(それぞれ該当する回答をクリック)

	整備されている			有効か			
	十分に されている	ある程度 されている	不十分	有効	ある程度 有効	あまり有効 ではない	有効では ない
奨励金等大学からの金銭的支援	365人 (63.9%)	174人 (30.5%)	32人 (5.6%)	386人 (67.6%)	140人 (24.5%)	33人 (5.8%)	12人 (2.1%)
異分野の学生間で切磋琢磨できる環境 例：学生が交流するスペース、合同のセミナー等	284人 (49.7%)	244人 (42.7%)	43人 (7.5%)	259人 (45.4%)	230人 (40.3%)	62人 (10.9%)	20人 (3.5%)
外国人、職業人など、通常の大学院では 接触しにくい人との交流の機会	293人 (51.3%)	240人 (42.0%)	38人 (6.7%)	291人 (51.0%)	209人 (36.6%)	55人 (9.6%)	16人 (2.8%)

上の理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

問9B. このプログラムの枠によって、下のことを経験しましたか、また経験した場合それは有効でしたか。  
 (※プログラムのカリキュラムに以下の制度・取組がない場合は「修了まで参加の予定はない」をチェック  
 してください。)

	経験したか			有効か（「参加した」を選択した場合のみ回答してください）			
	参加した	これから参加	修了まで参加の予定はない	有効	ある程度有効	あまり有効ではない	有効ではない
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）	51人 (8.9%)	174人 (30.5%)	346人 (60.6%)	38人 (74.5%)	11人 (21.6%)	2人 (3.9%)	0人 (0.0%)
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1年以上）	39人 (6.8%)	215人 (37.7%)	317人 (55.5%)	36人 (92.3%)	3人 (7.7%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
国内の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ以外の国内での学外活動 ※1	87人 (15.2%)	96人 (16.8%)	388人 (68.0%)	67人 (77.0%)	20人 (23.0%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)

※1 「参加した」、「これから参加」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記述してください。

海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1月未満）	49人 (8.6%)	119人 (20.8%)	403人 (70.6%)	40人 (81.6%)	8人 (16.3%)	1人 (2.0%)	0人 (0.0%)
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップ（1年以上）	28人 (4.9%)	216人 (37.8%)	327人 (57.3%)	27人 (96.4%)	1人 (3.6%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
本プログラムの中での留学（3ヶ月未満）	83人 (14.5%)	144人 (25.2%)	344人 (60.2%)	68人 (81.9%)	14人 (16.9%)	1人 (1.2%)	0人 (0.0%)
本プログラムの中での留学（3ヶ月以上1年未満）	40人 (7.0%)	210人 (36.8%)	321人 (56.2%)	37人 (92.5%)	3人 (7.5%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
本プログラムの中での留学（1年以上）	6人 (1.1%)	57人 (10.0%)	508人 (89.0%)	5人 (83.3%)	1人 (16.7%)	0人 (0.0%)	0人 (0.0%)
海外の民間企業又は官庁、国際機関等への研修・インターンシップおよび留学以外の国外での学外活動 ※2	84人 (14.7%)	94人 (16.5%)	393人 (68.8%)	78人 (92.9%)	5人 (6.0%)	1人 (1.2%)	0人 (0.0%)

※2 「参加した」、「これから参加」と回答した場合、具体的な活動内容や期間を記述してください。

上の理由や特に有効と思ったことがあれば自由に記述してください。

問10 このプログラムによって、下のような能力は身についたと思いますか。

	非常に身についた	ある程度身についた	あまり身についていない	身についていない
高度な専門的知識・研究能力	167人 (29.2%)	272人 (47.6%)	103人 (18.0%)	29人 (5.1%)
高い国際性	265人 (46.4%)	232人 (40.6%)	65人 (11.4%)	9人 (1.6%)
専門以外の分野の幅広い知識	251人 (44.0%)	266人 (46.6%)	47人 (8.2%)	7人 (1.2%)
物事を俯瞰し本質を見抜く力	228人 (39.9%)	252人 (44.1%)	76人 (13.3%)	15人 (2.6%)
自ら課題を発見し解決に挑む力	252人 (44.1%)	246人 (43.1%)	64人 (11.2%)	9人 (1.6%)
独創的な能力	184人 (32.2%)	259人 (45.4%)	105人 (18.4%)	23人 (4.0%)
チームのマネージメント力	231人 (40.5%)	235人 (41.2%)	89人 (15.6%)	16人 (2.8%)
企画立案、関係者との調整、統率する能力	250人 (43.8%)	218人 (38.2%)	88人 (15.4%)	15人 (2.6%)
他者と協働する力	298人 (52.2%)	235人 (41.2%)	27人 (4.7%)	11人 (1.9%)
その他（具体的に： ）	55人 (70.5%)	18人 (23.1%)	0人 (0.0%)	5人 (6.4%)

問11 以下のような点について、どう考えていますか。

	非常にそう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない
プログラムに参加する教員の間でプログラムについての理解が共有されている	151人 (26.4%)	221人 (38.7%)	145人 (25.4%)	54人 (9.5%)
一部の教員に負担が集中している	139人 (24.3%)	231人 (40.5%)	172人 (30.1%)	29人 (5.1%)
指導教員や研究室スタッフを含め、プログラムに参加していない教員等はプログラムの目的を理解し、あなたがプログラムに参加することに協力的である	206人 (36.1%)	244人 (42.7%)	87人 (15.2%)	34人 (6.0%)
学術研究だけではなく、企業や政府、国際機関などで活躍する人材を作り出す可能性が大きい	232人 (40.6%)	260人 (45.5%)	63人 (11.0%)	16人 (2.8%)
後輩にもこのプログラムを勧めたい	225人 (39.4%)	259人 (45.4%)	72人 (12.6%)	15人 (2.6%)

問12 以下のような点について、どう考えていますか。

	非常にそう思う	そう思う	そう思わない	全くそう思わない
このプログラムによって自身の研究に新たな示唆・知見が得られた（得られそうである）	252人 (44.1%)	240人 (42.0%)	56人 (9.8%)	23人 (4.0%)
所属研究室での指導と、このプログラムでの指導が二重負担になっている	65人 (11.4%)	190人 (33.3%)	210人 (36.8%)	106人 (18.6%)
所属研究室において、自分の専門的な研究を進めて、業績を上げられるか不安がある	79人 (13.8%)	186人 (32.6%)	184人 (32.2%)	122人 (21.4%)
修了後の進路に不安がある	85人 (14.9%)	190人 (33.3%)	157人 (27.5%)	139人 (24.3%)

## ご自身の今後の希望や本プログラムによる成果などについてうかがいます

問13 修了後の進路についてどのような希望をもっていますか。

	大学院入学時の希望 (いくつでも○)	現在の希望 (いくつでも○)	既に進路が 決定している (希望ではなく、決定し ている場合1つだけ○)
民間企業に就職 (研究者以外として)	181 人 (31.7%)	181 人 (31.7%)	14 人 (13.7%)
民間企業に就職 (研究者として)	313 人 (54.8%)	323 人 (56.6%)	11 人 (10.8%)
官公庁に就職	125 人 (21.9%)	137 人 (24.0%)	16 人 (15.7%)
国際機関に就職	137 人 (24.0%)	199 人 (34.9%)	13 人 (12.7%)
NPO・NGO等 (公共的サービスの提供主体) に就職	75 人 (13.1%)	100 人 (17.5%)	5 人 (4.9%)
医師、弁護士などの専門職	46 人 (8.1%)	41 人 (7.2%)	6 人 (5.9%)
起業	82 人 (14.4%)	137 人 (24.0%)	4 人 (3.9%)
大学 (海外を含む) に研究者として就職	325 人 (56.9%)	324 人 (56.7%)	22 人 (21.6%)
その他公的研究機関 (海外を含む) に研究者として就職	258 人 (45.2%)	290 人 (50.8%)	4 人 (3.9%)
その他 (具体的に : )	12 人 (2.1%)	10 人 (1.8%)	7 人 (6.9%)
決めていない	12 人 (2.1%)	10 人 (1.8%)	

問14 プログラムへの参加によって、あなたの人生観、職業観、世界観、国際意識などがどのように変わったかを自由に記入してください。

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 （ はい ・ いいえ ）

問15 産学官民(※)にわたりグローバルに活躍するリーダーとなるために、所属するプログラムにおいてあなたが主体的に行った活動、及びその成果について自由にアピールしてください。

(※「民」とは、NGO、NPOなど公共的サービスの提供主体を指します。)

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 （ はい ・ いいえ ）

## 全般的なご意見をうかがいます

問16 あなたが参加するプログラムについて、あなたの将来に向けてこのプログラムがどう役立っているか、又はどのように改善してほしいかも含め、感想、ご意見を自由に記入してください。(下記①～③のうち1つでも構いません。)

①<プログラムが役立っている点・良い点>

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 ( はい ・ いいえ )

②<改善して欲しい点>

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 ( はい ・ いいえ )

③<その他>

固有名詞を外すなど個人が特定されない処理をした上で、所属プログラムへ上記のご意見を情報提供しても良いですか。 ( はい ・ いいえ )

## (参考情報) よろしければご協力ください

問 17 あなたはこのプログラムをどのようにして知りましたか (任意回答・あてはまるもの全てに○)

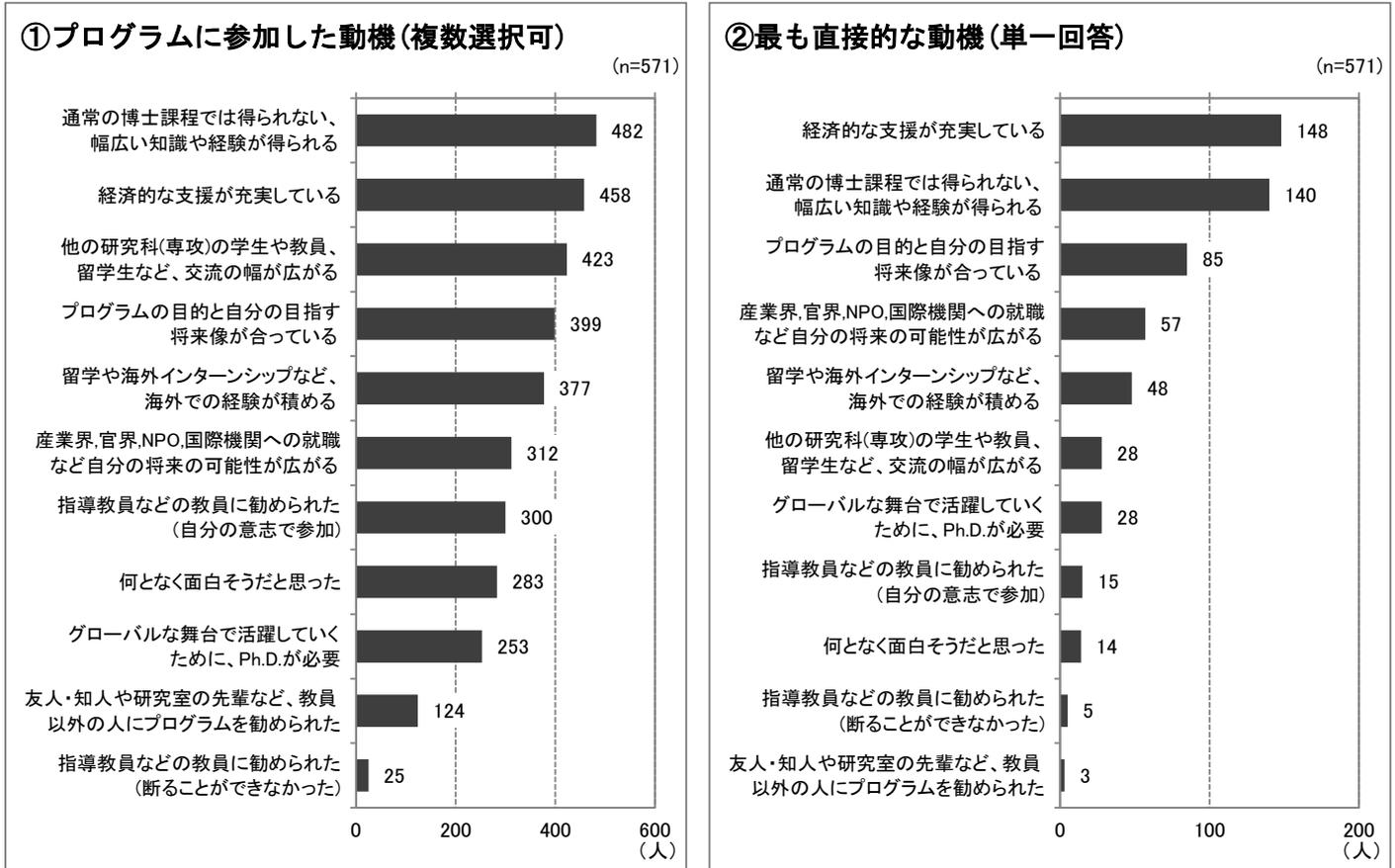
1	参加プログラムのホームページ	152 人 (26.8%)
2	文部科学省のホームページ	11 人 (1.9%)
3	日本学術振興会のホームページ	7 人 (1.2%)
4	参加プログラムのリーフレット等	125 人 (22.0%)
5	大学で行われた説明会・シンポジウム等	262 人 (46.1%)
6	大学以外の場所で行われた説明会・シンポジウム等	7 人 (1.2%)
7	新聞、雑誌等の公告	7 人 (1.2%)
8	プログラム担当者の教員	308 人 (54.2%)
9	プログラム担当者以外の教員	98 人 (17.3%)
10	学内の友人・知人	153 人 (26.9%)
11	学外の友人・知人	12 人 (2.1%)
12	Facebook 等の SNS	6 人 (1.1%)
13	その他 (具体的に : )	33 人 (5.8%)

**調査項目はこれで終わりです。ご協力ありがとうございました。**

## 《参考グラフ》

当該プログラムにかかる以下の設問についてグラフ化しています。

問6-1 あなたがこのプログラムに参加した動機として、あてはまるもの全てにチェックしてください。また、その中で最も直接的な動機に近いもの1つに○をしてください。



問10 このプログラムによって、下のような能力は身についたと思いますか。

